

海南病院卒後臨床研修カリキュラム

【全科共通研修目標】

将来の進路にかかわらずすべての臨床医に必要とされる基本的臨床能力の獲得と、今日の臓器別専門診療のなかで見失われがちな主治医機能の体得、医師として必要な基本的姿勢や態度、社会的役割の認識、生涯に亘る自己研鑽など、医療人としての人格を涵養する。

【到達目標】

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

8. 科学的探求

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C.基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

【実務研修の方略】

経験すべき症候—29 症候—

外来又は病棟において、下記の症候を呈する疾患について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

経験すべき疾病・病態－26 疾病・病態－

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

※上記の 29 症候と 26 疾病・病態は 2 年間の研修期間中に全て経験するように求められている必修項目となる。少なくとも半年に 1 回行われる形成的評価時には、その時点で研修医が経験していない症候や疾病・病態があるかどうか確認し、残りの期間に全て経験できるようにローテーション診療科を調整する必要がある。なお、「体重減少・るい瘦」、「高エネルギー外傷・骨折」など、「・」で結ばれている症候はどちらかを経験すればよい。依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)に関しては、ニコチン、アルコール、薬物、病的賭博依存症のいずれかの患者を経験することとし、経験出来なかった疾病については、座学で代替することが望ましい。

病歴要約とは、日常業務において作成する外来または入院患者の医療記録を要約したものであり、具体的には退院サマリー(入院診療概要録)または外来カルテのいずれかの提出が必要である。病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むことが必要であり、また、入院症例で担当期間内に退院に至らなかった場合、担当期間までを記載し出力する。

病歴要約に記載された患者氏名、患者 ID 番号等は同定不可能とした上で記録を残す。

「経験すべき症病・病態」の中に少なくとも 1 症例は、外科手術に至った症例を選択し、病歴要約には必ず手術要約を含めることが必要である。

経験すべき症候(29 症候)、および経験すべき疾病・病態(26 疾病・病態)について、研修を行った事実の確認を行うための日常業務において作成する病歴要約を確認する必要があり、研修医は研修を担当した指導医の確認のもと、当院様式の修了認定レポートを提出すること。

その他(経験すべき診察法・検査・手技等)

以下の項目について、研修期間全体を通じて経験し、形成的評価を受けたうえで、十分な能力を身につける

1. 医療面接

医療面接では、患者と対面した瞬間に緊急処置が必要な状態かどうかの判断が求められる場合があること、診断のための情報収集だけでなく、互いに信頼できる人間関係の樹立、患者への情報伝達や推奨される健康行動の説明等、複数の目的があること、そして診療の全プロセス中最も重要な情報が得られることなどを理解し、望ましいコミュニケーションのあり方を不断に追求する心構えと習慣を身につける。

患者の身体に関わる情報だけでなく、患者自身の考え方、意向、解釈モデル等について傾聴し、家族をも含む心理社会的側面、プライバシーにも配慮する。

病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー等）を聴取し、診療録に記載する。

2. 身体診察

病歴情報に基づいて、適切な診察手技（視診、触診、打診、聴診等）を用いて、全身と局所の診察を速やかに行う。このプロセスで、患者に苦痛を強いたり傷害をもたらしたりすることのないよう、そして倫理面にも十分な配慮をする。とくに、乳房の診察や泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む）を行う場合は、指導医あるいは女性看護師等の立ち合いのもとに行う。

3. 臨床推論

病歴情報と身体所見に基づいて、行うべき検査や治療を決定する。患者への身体的負担、緊急度、医療機器の整備状況、患者の意向や費用等、多くの要因を総合してきめなければならないことを理解し、検査や治療の実施にあたって必須となるインフォームドコンセントを受け手順を身につける。また、見落とすと死につながるいわゆる Killer disease を確実に診断できる能力を身につける。

4. 臨床手技

日常診療において必要な臨床手技を、単独で安全・確実に実施できることを目標に、【1】指導医・上級医の直接監督下での実施、【2】指導医・上級医がすぐに対応できる状況下での実施、【3】ほぼ単独での実施などの段階を踏んで経験する。

【1】 大学での医学教育モデルコアカリキュラム（2016 年度改訂版）では、学修目標として、体位変換、移送、皮膚消毒、外用薬の貼布・塗布、気道内吸引・ネブライザー、静脈採血、胃管の挿入と抜去、尿道カテーテルの挿入と抜去、注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できることとされている。また、中心静脈カテーテルの挿入、動脈血採血・動脈ラインの

確保、腰椎穿刺、ドレーンの挿入・抜去、全身麻酔・局所麻酔・輸血、眼球に直接接触れる治療については、見学し介助できることが目標とされている。

【2】 研修開始にあたって、各研修医が医学部卒業までに上記手技をどの程度経験してきたのか確認し、研修の進め方について個別に配慮する。

【3】 具体的には、①気道確保、②人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む。）、③胸骨圧迫、④圧迫止血法、⑤包帯法、⑥採血法（静脈血、動脈血）、⑦注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）、⑧腰椎穿刺、⑨穿刺法（胸腔、腹腔）、⑩導尿法、⑪ドレーン・チューブ類の管理、⑫胃管の挿入と管理、⑬局所麻酔法、⑭創部消毒とガーゼ交換、⑮簡単な切開・排膿、⑯皮膚縫合、⑰軽度の外傷・熱傷の処置、⑱気管挿管、⑲除細動等の臨床手技を身につける。

内科研修方略・評価

総合内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

将来の専門分野に関わらず、すべての医師に必要とされる基本的な臨床能力や診療態度を身につけるために、医療面接・身体診察・プロブレムリストを中心とした専門分野によらない総合的な外来・入院診療を実践し、多職種間コミュニケーションや臨床倫理的問題など幅広い視点を持つことの重要性を体感する。

行動目標 SB0s

- 1) 医療面接を行い、正確な病歴や解釈モデルを聴取できる。(知識・技能)
- 2) 他の医療機関から必要な過去の情報を収集できる。(技能)
- 3) 的をもって全身の身体診察が適切に行える。(知識・技能)
- 4) スクリーニング検査の結果を漏れなく解釈できる。(知識)
- 5) 基礎資料から問題点を漏れなく整理し、プロブレムリストを立てることができる。(知識)
- 6) 一般的な症状・所見・検査異常へのアプローチと臨床推論の考え方を理解する。(知識)
- 7) プロブレムリストをもとに適切なアセスメント・カルテ記載ができる。(技能)
- 8) 診療に責任を持ち、ディスカッションを通じて方針決定に主体的に参加できる。(態度)
- 9) 場面に応じた症例プレゼンテーションができる。(技能)
- 10) 臨床状況に応じて適切なコンサルテーションができる。(技能・態度)
- 11) 基本的処置（採血、穿刺検査など）や検査（エコー、Gram染色など）が行える。(技能)
- 12) 感染症診療の基本・抗菌薬の適正使用について理解する。(知識)
- 13) 高齢患者の総合的機能評価について理解し実践できる。(知識・技能)
- 14) 临床上の疑問についての適切に文献を検索し利用できる。(技能)
- 15) 患者・家族の心理に配慮した病状説明・療養相談が行える。(技能)
- 16) 他科医師やコメディカルスタッフと十分かつ円滑にコミュニケーションがとれる。(態度)
- 17) 臨床現場で遭遇する倫理的問題に気づき、適切に悩み、対峙できる。(態度)
- 18) 自らの診療内容や振る舞いについて適切に振り返りができる。(態度)
- 19) 経験の共有や教育に興味を持ち、後輩・学生の指導に積極的に取り組む。(態度)

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において総合内科・血液・膠原病・老年内科と合同で4週間。
選択研修期間において単独・もしくはユニットで2-8週間。

総合内科の研修では、なるべく見学や講義といった受動的な内容は避け、診療チームの一員として患者を担当し、研修医の立場で貢献できる内容について役割と責任をもって診療に臨んでいただきたいと思います。

研修内容

- 1) 研修開始時に重点目標を設定し、中間、修了時に振り返りを行う。
- 2) 入院患者を指導医と共に担当し、基礎資料収集（病歴・身体所見・検査所見・過去の資料）を行い、プロブレムリストを作成する。プロブレムリストごとの検討・評価を行う。
- 3) 担当患者の病棟回診（単独・チーム）を行い、カルテ記載を行う。自信のない所見等は指導医と共に確認し、フィードバックを受ける。
- 4) 検査・処方・注射の入力、処置等の指示出し、他科コンサルテーションを行う。
- 5) 毎日、朝夕のカンファレンスにて担当患者のプレゼンテーションを行い、検査・治療方針について指導医と検討する。
- 6) 総合内科では定期に行われる特殊検査はないため、担当患者で必要な手技や検査を指導医と共に施行する。その他の手技はある程度貪欲に機会を求め、見学・施行するよう努める。
- 7) 担当患者のことを誰よりもよく把握するように日々の経過を確認する。特殊検査及び他科受には可能な限り同行する。
- 8) 得た病歴、身体所見、検査所見は必ずその日のうちに評価を行い、次のプランを検討する。
- 9) 病棟からの報告に対応する。対応に迷う場合・緊急時にはすみやかに指導医に相談する。
- 10) 担当患者について多職種カンファレンスの機会があれば積極的に参加し議論する。
- 11) 倫理的な問題についても取り上げ、臨床倫理の4大原則や4分割法を利用して検討する。
- 12) 高齢患者では疾患の診断治療のみではなく、総合的機能評価（CGA）を行う。
- 13) 感染症診療の原則に従った診断・抗菌薬治療を学び、Gram染色を習得する。
- 14) 担当患者の病状説明に同席し、説明の一部を担当する。振り返りを行う。
- 15) 外来診療の研修にも可能であれば参加する。外来予診・内科午後診察を一部担当し、指導やフィードバックを受ける。
- 16) 担当患者に関連する事項・臨床上の疑問について信頼できる資料を参照し（UpToDate®や、各領域の成書、必要に応じて各種ジャーナル等）、共有のための勉強会を担当する。
- 17) ER当直業務はそちらを優先する。当直明けは担当患者の引継ぎを行い帰宅する。
- 18) ローテートの修了時に学びや経験の共有のためのプレゼンテーションを行う。

週間スケジュール

- ・朝夕に指導医とプレゼンテーション、振り返り、フィードバックの時間を定期的にとること
 - ・担当患者の回診を指導医とともに行うこと
- 以外は病棟・外来で比較的自由に研修・自己学習できるのではと思います。

その他、今後順次ニーズに合わせて検討・変更する予定です。

【研修評価】

日々のカンファレンス・回診におけるフィードバックにより継続的に形成的評価を行う。

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
2	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
3	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	回診・カンファ時
4	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
5	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
6	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
7	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
8	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	カンファレンス時
9	技能	形成的	チェックリスト	指導医・コメディカル	カンファレンス時
10	技能・態度	形成的	チェックリスト	指導医	カンファレンス時
11	技能	形成的	実技試験	指導医・コメディカル	ローテ中随時
12	知識	形成的	観察記録	指導医・薬剤師	ローテ中随時
13	知識・技能	形成的	観察記録	指導医・看護師	ローテ中随時
14	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
15	技能	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテート中
16	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
17	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
18	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	中間・終了時
19	態度	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時

呼吸器内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

適切なプライマリケアを実践できる医師となるために必要な呼吸器病学、呼吸器疾患の理解と基本的診療能力を修得する。

行動目標 SBOs

- 1) 患者および家族に対して、適切な医療面接を行う。
- 2) 主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職場環境についての病歴情報、社会的または精神的に問題となる点など必要な情報を得ることができる。
- 3) 上級医および他職種と患者情報の共有、症例検討、チーム医療の実践ができる。
- 4) 症例検討会において受け持ち患者についてプロブレム、診療内容、診療計画を適切にプレゼンテーションし、上級医、他職種と討議する。
- 5) 胸部単純 X 線写真の読影ができる。
- 6) 呼吸不全の鑑別診断、治療計画を立てることができる。
- 7) 以下の主要症候について病態と鑑別疾患を述べることができる。
咳、痰、血痰、喀血、呼吸困難、喘鳴、チアノーゼ
- 8) 呼吸器感染症症例の喀痰グラム染色を行い起病菌の推定を行うことができる。
- 9) 市中肺炎に対して、細菌性肺炎、非定型肺炎の鑑別および起病菌の推定に基づいた適切な抗菌薬の選択、投与できる。
- 10) 気管支喘息に対し、診断、症状コントロールの評価を行い、治療（発作時および安定期）、患者指導を行うことができる。
- 11) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断、禁煙指導、重症度に応じた治療計画を立てることができる。
- 12) COPD の急性増悪に対して、呼吸管理、初期治療を行うことができる。
- 13) びまん性肺疾患の鑑別と診断計画を述べることができる。
- 14) 肺結核の診断、治療計画、感染症法に基づく対応を述べることができる。
- 15) 肺がんの診断、病期や身体活動度に基づいた治療（外科的治療、化学療法、放射線治療、緩和療法）を選択できる。
- 16) 胸腔穿刺術につき、適応の検討、説明と同意、手技の実践ができる。
- 17) 気管支鏡検査、気管支肺泡洗浄、経皮的肺生検、局所麻酔下胸腔鏡検査の適応と禁忌を述べることができる。
- 18) 臨床試験、科学的根拠に基づく医療（Evidence Based Medicine）について理解することができる。
- 19) がん患者等に対してアドバンス・ケア・プランニングを踏まえた意思決定支援の場に参加

する。

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において4週間、2年次選択

研修内容

- 1) 上級医(主治医)による指導の下、常に3～6人の入院患者を担当医として受け持ち、問診、診察、検査結果の評価、診療プランの立案と実践といった一連の診療プロセスを行う。
- 2) 症例検討会において受け持ち患者についてプレゼンテーションを行い、上級医と討議する。
- 3) 担当症例の退院サマリーを作成し、主治医よりフィードバックを受ける。
- 4) 検査症例検討会において、気管支鏡検査、胸腔鏡検査、CTガイド下生検の適応と方針を討議する。
- 5) 動脈血採血、胸腔穿刺術、気道過敏性試験、経皮的生検を安全に施行できるよう上級医の指導を受ける。
- 6) 日本呼吸器学会の研修カリキュラムに準じた指導、研修を受ける

＜研修レベルの段階表示＞

達成目標 A: 内容を理解している。

a: 実施できる、あるいは、受け持ち症例で自らが検査を依頼し結果を解釈した経験をする

b: 見学を含め経験することが望ましい

総論

I. 主要症候と身体所見

A

咳、痰、血痰、喀血、呼吸困難、喘鳴、胸痛、嘔声、チアノーゼ、ばち指、異常呼吸、胸部身体所見：視診、触診、打診、聴診、腫瘍随伴症候群

II. 検査

- | | |
|------------------------------|----|
| 1. 血液一般検査および生化学検査 | Aa |
| 2. 免疫学的検査（皮膚反応を含む） | Aa |
| 3. 腫瘍マーカー | Aa |
| 4. 感染症の診断法 | |
| a. 痰検査（鼻咽頭ぬぐい液を含む） | Aa |
| b. ウイルス検査（迅速診断を含む） | Aa |
| c. 血液検査（真菌、結核を含む） | Aa |
| d. 尿中抗原による診断法 | Aa |
| e. 遺伝子診断法 | Ab |
| 5. 痰採取法（誘発痰を含む）と細胞診（細胞分画を含む） | Aa |
| 6. 胸部X線診断法 | |
| a. 透視、単純撮影 | Aa |

b. 胸部 CT, 胸部 MRI	Aa
7. 核医学的診断法	
a. 肺血流シンチグラフィ、肺換気スキャン	Ab
b. 骨シンチグラフィ	Ab
c. ガリウムシンチグラフィ	Ab
d. 陽電子放出断層撮影 (PET)	Ab
8. 内視鏡検査および生検法	
a. 気管支鏡検査	Ab
観察, 直視下生検・擦過, 気管支洗浄, 経気管支的キュレット, 経気管支肺生検 気管支肺胞洗浄	
b. 胸腔鏡検査 (肺・胸膜生検含む)	A
9. その他の生検法等	
a. 経皮的生検・吸引細胞診	Ab
10. 胸腔穿刺術	Aa
11. 肺音の分析	Aa
12. 胸部超音波検査法	Aa
13. 呼吸機能検査	Aa
a. 換気力学検査	
スパイログラフィー, 肺気量分画 コンプライアンス, 気道抵抗 フロー・ボリューム曲線	
b. ガス交換機能	
呼気ガス分析	
肺胞換気量	
換気血流比	Ab
拡散能力	Ab
c. 気道過敏性・可逆性試験	Ab
d. 動脈血ガス分析	Aa
e. 経皮的酸素飽和度モニター	Aa
g. 運動負荷試験	A
h. 呼吸中枢機能検査	A
i. 睡眠呼吸モニター	A
III. 治療	
1. 薬物療法 (吸入療法を含む)	Aa
気管支拡張薬, 鎮咳薬、去痰薬, 抗菌薬 副腎皮質ステロイド薬・免疫抑制薬, 抗アレルギー薬 抗癌剤, 抗癌剤の副作用緩和治療, 疼痛緩和治療 漢方薬	
2. 酸素療法	
3. 心マッサージ	
4. 気管内挿管	Aa
5. 気管切開	Ab
6. 人工呼吸、レスピレーター	Aa
7. NIPPV	Ab
8. 中心静脈圧測定	Aa

9. 輸液	Aa
水・電解質輸液, 高カロリー輸液	Aa
10. 経管栄養	Aa
11. 胸腔ドレナージ	
12. 内視鏡的気道吸引	Ab
13. 内視鏡的気管内異物除去	
14. 内視鏡的治療（止血法, レーザー照射, ステント留置）	A
15. 放射線療法	Ab
16. 気管支動脈塞栓術	
17. 減感作療法	A
18. 呼吸リハビリテーション	Ab
19. 体位ドレナージ法	Ab
20. 在宅呼吸療法	Ab
a. 在宅酸素療法	Ab
b. 在宅人工呼吸	

各 論

I. 気道・肺疾患	
1. 感染症および炎症性疾患	
a. 急性気管支炎	Aa
b. 細菌性肺炎	Aa
c. 肺化膿症	Ab
d. 嚔下性肺炎	Aa
e. マイコプラズマ肺炎	Aa
f. クラミジア肺炎（クラミドフィラ肺炎）	Ab
g. レジオネラ肺炎	A
h. ウイルス肺炎	A
i. 真菌症	A
j. 肺結核症	Ab
k. 非結核性抗酸菌症	Ab
l. ニューモシスティス肺炎	A
m. 日和見感染	A
2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	Aa
3. 気管支・細気管支の疾患	
a. 気管支拡張症	Aa
b. びまん性汎細気管支炎	Aa
c. 肺嚢胞	Ab
d. 無気肺	Ab
4. アレルギー性疾患	
a. 気管支喘息	Aa
b. 咳喘息	
c. 急性および慢性好酸球性肺炎	A
d. アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）	A
e. アレルギー性肉芽腫性血管炎（Churg-Strauss 症候群）	A
f. 過敏性肺炎	A
5. 特発性間質性肺炎（IIPs）	
a. 特発性肺線維症（IPF/UIP）	A

b. 非特異性間質性肺炎 (NSIP)	
c. 特発性器質化肺炎 (COP/OP)	A
d. 剥離性間質性肺炎 (DIP)	A
e. リンパ球性間質性肺炎 (LIP)	A
f. 呼吸細気管支炎関連性間質性肺炎 (RB-ILD)	A
g. 急性間質性肺炎 (AIP/DAD)	A
6. 急性呼吸窮迫症候群・急性肺損傷	Ab
7. 薬剤、化学物質、放射線による肺障害	
a. 薬剤誘起性肺疾患	A
b. 放射線肺炎	Ab
8. 全身性疾患に伴う肺病変	
a. 膠原病および類縁疾患に伴う肺病変	A
b. サルコイドーシス	A
9. じん肺症	A
10. 肺循環障害	
a. 肺うっ血、肺水腫	Ab
b. 肺性心	Aa
c. 原発性肺高血圧症 (肺動脈性肺高血圧症)	
d. 肺血栓塞栓症、肺梗塞	A
11. 呼吸器新生物	
a. 小細胞癌	Ab
b. 非小細胞癌	Ab
c. 良性腫瘍	A
12. 呼吸調節障害	Bb
a. 閉塞型睡眠時無呼吸症候群	
b. 中枢型睡眠時無呼吸症候群	
c. 過換気症候群	
II. 呼吸不全	
急性呼吸不全, 慢性呼吸不全	Aa
III. 胸膜疾患	Ab
1. 気胸	Aa
2. 胸膜炎	
3. 膿胸	
4. 胸膜中皮腫	A
IV. 縦隔疾患	
1. 縦隔気腫	A
2. 縦隔腫瘍	A

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診, 処置 外来研修 (随時)	病棟回診, 処置 外来研修 (随時)	病棟回診, 処置 外来研修 (随時)	病棟回診, 処置 呼吸リハビリ講義 と見学 外来研修 (随時)	病棟回診, 処置 外来研修 (随時)
午後	気道過敏性試験	気管支鏡検査 レントゲン読影会	気管支鏡検査 局麻下胸腔鏡検査 CTガイド下肺生検	気管支鏡検査	リハビリカンファ (第1・3)
		検査症例検討会 文献抄読会		症例検討会	症例サマリ作成

作成必須レポート

- 1) 肺癌
- 2) COPD

【研修評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から形成的評価を受ける。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	態度	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
2	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
3	態度・知識	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
4	知識・技能	形成的	口頭試験	上級医, 指導医	ローテーション中
5	想起・技能	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
6	想起	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
7	想起	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
8	知識・技能	形成的	口頭試験	上級医, 指導医	ローテーション中
9	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
10	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
11	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
12	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
13	想起・解釈	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
14	想起・解釈	形成的	観察記録・口頭試験	上級医, 指導医	ローテーション中

15	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
16	知識・技能	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
17	想起	形成的	口頭試験	上級医, 指導医	ローテーション中
18	知識	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中
19	知識	形成的	観察記録	上級医, 指導医	ローテーション中

循環器内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

将来専攻する専門科に関わらず、救急対応や担当患者対応ですべての医師に必要とされる循環器科領域の幅広いプライマリケアができるようになるために、循環器領域で頻度の高い虚血性心疾患、心不全、不整脈など代表的な疾患の病態を理解し、チーム医療の一員として積極的に患者さんに関わり、基本的な診断技術、治療能力を身に付ける。

行動目標 SBOs

1) 循環器科領域における問診および身体所見

- ① 適切な問診及び身体所見を速やかに正確にとることができる。
- ② 急性冠症候群及び致死性不整脈などの緊急性の高い疾患を的確に診断し速やかに専門医に相談できる。

2) 循環器科領域における基本的検査法

- ① 自ら標準12誘導心電図を施行し、その主要所見が読影できる。
- ② 運動負荷心電図の適応と禁忌を理解し実施判定できる。
- ③ 心電図モニターを監視し、不整脈の診断と対処ができる。
- ④ 胸部X線写真の心臓及び肺野の異常所見の読影ができる。
- ⑤ 超音波心臓断層法ならびに超音波ドップラー法の手技を習得し、主な異常所見を読影できる。
- ⑥ 心血管CT像、MR像の適応と禁忌、心肺の解剖を理解し、主な異常所見を読影できる。
- ⑦ 心臓核医学検査の適応を理解し、その画像所見を説明できる。
- ⑧ 心臓カテーテル検査（心臓電気生理学的検査、心筋生検、冠動脈造影検査、心血管造影検査などを含む）の適応を理解し、検査結果を理解し、それらの実施にあたり補助的役割を果たすことができる。

3) 循環器科領域における治療法

- ① 主な循環器系薬剤（強心剤、利尿剤、降圧剤、抗狭心症薬、抗不整脈薬など）の薬効、薬理作用、副作用、禁忌を理解し、適切に投与できる。
- ② 補助循環（IABP, PCPS）のメカニズムとその適応と禁忌について理解し説明できる。
- ③ 電氣的除細動の適応と禁忌を理解し実施できる。
- ④ 緊急体外式一時的ペースメーカーおよび永久埋込型ペースメーカーの適応と禁忌を理解し説明できる。
- ⑤ 虚血性心疾患の観血的治療（PCI, CABG）の適応を理解しを説明できる。

- ⑥ 急性心筋梗塞における合併症を熟知し、段階的心臓リハビリテーションの適応と禁忌及び合併症を理解し、説明できる。
- ⑦ 狭心症を分類し、特に不安定狭心症の診断と適切な治療ができる。
- ⑧ 急性および慢性心不全の血行動態を非観血的・観血的に把握し、病態に応じた治療法（薬物治療・非薬物的治療・外科的治療）が選択できる。
- ⑨ 不整脈を電気生理学的に分類し、病態に応じた治療法（薬物治療・非薬物的治療・外科的治療）が選択できる。
- ⑩ 循環器疾患のリスクファクターに対する食事療法・生活指導ができる

【研修方略】

研修期間

1 年次心臓血管外科と併せて 6 週間、2 年次選択

研修内容

- 1) 一般外来、救急外来から入院する循環器科の症例を、担当医として受け持つ。
- 2) 循環器救急患者の対応を学ぶため、循環器待機を週に 2-3 回程度で担当する。
- 3) 指導医の下で心臓カテーテル検査において助手の業務を研修する。
- 4) 指導医の下、週に 1 回程度心臓エコー、トレッドミル、負荷心筋シンチを担当する。
- 5) 症例検討会で担当患者のプレゼンテーションを行い、治療方針について指導医とともに検討する。
- 6) 部長回診につく。
- 7) 研修中に抄読会を担当する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
早朝	心カテ症例 カンファ	症例検討会 (全入院患者)	抄読会	心カテ症例カン ファ	負荷心筋シンチ 読影
午前	負荷心筋シンチ	心カテ アブレーション	心カテ	負荷心筋シンチ	心カテ
午後	部長回診	心エコー 心肺運動負荷試 験(CPX)	心カテ	トレッドミル	心カテ
夕刻	内科会				

週 1 回半日の時間内全科 ER 当番がある。

上記以外の時間帯は担当患者回診に充てる。

作成必須レポート：心臓血管外科で経験も可

1) 急性冠症候群

2) 心不全

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1) ①	技能	形成的	観察記録	指導医	ラウンド時
1) ②	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
2) ①	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ②	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ③	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ④	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ⑤	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時
2) ⑥	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ⑦	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2) ⑧	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時
3) ①	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3) ②	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
3) ③	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3) ④	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
3) ⑤	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
3) ⑥	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
3) ⑦	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3) ⑧	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3) ⑨	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3) ⑩	技能	形成的	観察記録	指導医	ラウンド時

消化器内科

【研修目標】

種々の消化器疾患とそれに伴うさまざまな症状を正しく理解し、適切なタイミングで上級医や専門医に適切にコンサルテーションができる。

科ごとの到達目標 GIO

すべての医師に必要なとされる消化器科領域のプライマリケアができるようになるために、消化器疾患に伴う諸症状を理解し、情報の分析、全体像の把握によって、患者を全人的に理解するように心掛け、必要な基本手技を習得する。また、がん患者等に対してアドバンス・ケア・プランニングを踏まえた意思決定支援の場に参加する。

行動目標 SB0s

- 1) 病歴・身体所見・検査所見・必要な過去の資料に関して適切な情報収集が行える。(解釈)
- 2) 消化器疾患に伴う諸症状を理解し、所見・疫学が説明できる。(想起)
- 3) 消化器検査の目的、方法および手技、合併症とその治療法を理解し説明できる。(解釈)
- 4) 消化器検査の結果について適切に理解し判断できる。(想起)
- 5) 消化器疾患入院患者に関する治療方針を立案できる。(問題解決)
- 6) 患者の社会的背景や心理状態等について理解し、適切に患者に接することができる。(態度)
- 7) 各種検査にチームの一員として参加し、指導医のもとで基本手技を実施できる。(技能)
- 8) 病院の内外で実施される消化器関連の講演会や勉強会にも積極的に参加し、最新の知見を得る。(解釈)

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において4週間、2年次選択

研修内容

病棟で週に1人から2人の新入院患者を指導医とともに担当する。レポート作成に必要な疾患を担当できるように指導医が配慮する。

- 1) 担当患者に関する病歴・身体所見・検査所見・過去の資料の要旨に関する情報収集を行い、総合プロブレム方式に則りプロブレムリストごとの検討・評価を行う。(実務研修)
- 2) 担当患者に関する「入院診療計画書」を指導医とともに作成し、患者とその家族にわかりやすく説明する。消化器疾患診療におけるクリニカルパスについてもその意義を理解し実際に運用する。(実務研修)
- 3) 担当患者の検査、他科診察、治療に同行し、患者の心理状態等についても理解するよう努め

る。(実務研修)

- 4) 病棟での入院患者カンファレンスで担当患者に関する症例の呈示を行う。適切な医学用語を用いて症例の呈示を行い、必要に応じて積極的に指導医あるいは消化器外科等他科の専門医にも助言を求める姿勢を身につける。(カンファレンス)
- 5) 担当患者の退院時にはすみやかにサマリーを作成し、指導医のチェックを受ける。(実務研修)
- 6) 消化器検査の合併症とその治療法を熟知した上で、消化器科で実施される各種検査にチームの一員として参加し、基本手技を指導医のもとで実施する。(実務研修)
- 7) 緊急内視鏡検査など腹部救急疾患の初期治療に参加し、緊急検査・治療の適応を適切に判断する能力を培う。(実務研修)
- 8) 病院の内外で実施される消化器関連の講演会や勉強会にも積極的に参加して最新の知見を得た上で、実際の臨床診療に役立てるよう努力する。(講義)

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7時30分	Morning Report	Morning Report	Morning Report	消化器手術	Morning Report
8時00分	ERカンファ	ERカンファ	ERカンファ	例検討会	ERカンファ
午前	消化器系各種検査 (GIS, UGI, 注腸, エコー)				
午後	病棟、特殊検査、処置 (ERCP, PTCD, 血管造影など)				
夕刻	CPC/ER/ 内科会		18:00- 入院症例 検討会	内視鏡症例 検討会	

週1回半日の時間内全科 ER 当番がある。

作成必須レポート： *外科で経験も可

- 1) 食道・胃・十二指腸疾患 (胃癌*、消化性潰瘍)
- 2) 大腸癌*
- 3) 胆嚢・胆管・膵疾患 (胆石*)

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	観察記録	上級医	カンファレンス時
2	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
3	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ラウンド時
4	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
5	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
6	態度	形成的	口頭試験	指導医	ラウンド時
7	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
8	解釈	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時

糖尿病・内分泌内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

糖尿病、内分泌、代謝疾患の初期治療、管理を行うために病態を理解し、受診者のニーズを考慮した治療法を適用し、チーム医療ができる。

糖尿病、内分泌疾患の緊急症の治療を行うために病態を把握し、適切な治療法を選択出来る。

行動目標 SBOs

- 1) 家族歴、嗜好歴、生活習慣、過去の治療歴、随伴症状の有無、内容などを要領よく聴取できる。(技能)
- 2) 受診者及びその家族に現在の症状と受診者のニーズに配慮した治療計画を説明することができる。(態度)
- 3) 糖尿病の病型、病期について説明ができる。(想起)
- 4) 受診者の病型、病期を判断できる。(解釈)
- 5) 糖尿病及び合併症に関する身体所見について説明ができる。(想起)
- 6) 糖尿病及び合併症に関する身体所見を診察できる。(技能)
- 7) 2型糖尿病に合併する肥満、脂質異常症、高尿酸血症などの病態について説明できる。(想起)
- 8) 特殊な病型による糖尿病を疑うべき所見を説明できる。(想起)
- 9) 動脈硬化性疾患のリスクについて評価できる。(解釈)
- 10) 甲状腺機能異常の身体所見について説明ができる。(想起)
- 11) 甲状腺の触診ができる。(技能)
- 12) 経口ブドウ糖負荷試験の適応が説明できる。(想起)
- 13) 経口ブドウ糖負荷試験の結果を評価できる。(解釈)
- 14) HbA1c とグリコアルブミンについて意義の違いも含め説明ができる。(想起)
- 15) HbA1c とグリコアルブミン結果を評価できる。(解釈)
- 16) 糖尿病合併症の評価に必要な所見、検査について説明できる。(想起)
- 17) 糖尿病合併症の重症度を判断できる (解釈)
- 18) FT3、FT4、TSH についての結果を評価できる。(解釈)
- 19) 糖尿病の食事、運動療法の概略について説明できる。(想起)
- 20) 糖尿病の食事、運動療法について上級医と共に患者の生活に配慮した適切な指示、指導ができる。(問題解決)
- 21) 糖尿病のインスリン療法の適応となる病状について説明できる。(想起)
- 22) 糖尿病治療中の低血糖症状について説明ができる。(想起)
- 23) 糖尿病治療中の低血糖症状に対して的確な対処ができる。(問題解決)
- 24) 高脂血症の食事療法、運動療法について説明できる。(想起)

- 25) 高脂血症の適切な薬物を選択でき、患者指導ができる。(問題解決)
- 26) 高尿酸血症の病型に即した薬物療法、患者指導ができる。(問題解決)
- 27) 低血糖の主な原因につき説明できる。(想起)
- 28) 高血糖高浸透圧症候群、糖尿病性ケトアシドーシスの病態が説明できる。(想起)
- 29) 高血糖高浸透圧症候群、糖尿病性ケトアシドーシスの診断に必要な検査を実施でき、初期治療が迅速にできる。(問題解決)
- 30) 副腎不全を疑う所見について説明できる。(想起)
- 31) 副腎不全の診断に必要な状況に応じた検査を選択できる。(問題解決)
- 32) 副腎クリーゼを疑う所見について説明できる。(想起)
- 33) 上級医とともに副腎クリーゼの初期治療が行うことができる。(問題解決)
- 34) 甲状腺クリーゼを疑う所見について説明できる。(想起)

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において4週間、2年次選択

研修内容

- 1) 一般外来、救急外来から入院する糖尿病・内分泌の症例を、担当医として受け持つ。
- 2) 糖尿病教室に参加して、生活習慣病の集団指導方法について学ぶ。
- 3) 指導医の下で甲状腺エコーを実施する。
- 4) 指導医の下で、甲状腺エコー下での穿刺細胞診の実施（3週目以降）。
- 5) 症例検討会で担当患者のプレゼンテーションを行い、治療方針について指導医とともに検討する。
- 6) 糖尿病教育支援チームミーティングに参加して、チーム医療における医師の役割、他職種スタッフとチームとしての患者教育を行うことを学ぶ。
- 7) 他疾患（周術期を含む）で入院した糖尿病症例において、上級医の指導のもとに血糖管理を行う。
- 8) 1年次はローテーション研修中の最終週に糖尿病・内分泌領域で興味ある分野や疾患についてまとめ、上級医の指導の下スライドを用いて発表する。
- 9) 2年次はローテーション研修中に糖尿病・内分泌領域で興味ある分野や疾患について、1編英文論文を読み抄読会で発表する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前					
午後	糖尿病 教室参加	糖尿病 教室参加	甲状腺 US 穿刺	NST 回診	甲状腺 US 穿刺
夕刻				カンファレンス	
				スライド発表 (研 修最終週)	

* 上記以外の時間帯は担当患者回診に充てる。適宜上級医とともに外来初診患者診察あり。

作成必須レポート

1) 糖尿病

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
2	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
3	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
4	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
5	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
6	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
7	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
8	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
9	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
10	想起	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
11	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
12	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
13	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
14	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
15	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
16	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
17	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時

18	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
19	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
20	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
21	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
22	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
23	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
24	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
25	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
26	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
27	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
28	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
29	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
30	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
31	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
32	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
33	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
34	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時

腎臓内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

腎臓内科・血液浄化領域を中心に、1人の患者を全人的に診ることができる視野を備えるために、該当領域の知識を習得し、患者・家族・スタッフとのコミュニケーションに留意し、初期対応を行える技能を修得する。

行動目標 SBOs

- 1) 尿検査・腎機能検査を評価する。(解釈)
- 2) 腎生検の適応を選択する。(解釈)
- 3) 急性腎障害、慢性腎臓病について説明する。(想起)
- 4) 浮腫についての鑑別・治療方針を立案する。(問題解決)
- 5) 病態に応じた輸液を立案する。(問題解決)
- 6) 病態に応じた水分管理・食事療法について立案する。(問題解決)
- 7) 血液透析、血液透析濾過、血漿交換、白血球除去療法、LDL 吸着療法等、透析室で行われている血液浄化療法についての実際を対比する。(解釈)
- 8) 患者・家族の入院前、入院中、退院後の具体的な生活支援について配慮する。(態度)
- 9) 医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、MSW：医療ソーシャルワーカー等と協力して診療にあたる姿勢を身につける。(態度)
- 10) 他科依頼箋や他院への診療情報提供書を作成する。(技能)
- 11) 適切な社会的支援についての書類（身体障害者・特定疾患・介護保険 等）を作成する。(技能)
- 12) 手技・手術（腎生検、エコー透視下 緊急透析用カテーテル挿入術、シャント手術、シャント造影、PTA：経皮経管血管形成術等）を指導医／上級医とともに、助手・術者として実施する。(技能)
- 13) 担当症例のプレゼンテーションと病態についてのプレゼンテーションを行う。(技能)

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において4週間、2年次選択

研修内容

研修基本事項に留意し、主治医（指導医／上級医）とともに入院患者を常時5～8人程度受け持つ。（下記の疾患群をもつよう指導医にて配慮する。 * は、必須。）

- * 腎炎、ネフローゼ
 - ・ AKI：急性腎障害（急性腎不全）
- * CKD：慢性腎臓病（慢性腎不全）
- * 血液透析
 - ・ 腹膜透析
- * 高血圧症、糖尿病、膠原病など腎臓病に関連した全身性疾患
 - ・ 水、電解質、酸塩基平衡異常
- * 腎不全～透析者の合併症

研修基本事項

- 1) 新規入院症例を主治医（指導医／上級医）とともに担当医として受け持つ。担当当日のうちに、基礎資料収集（病歴・身体所見・検査所見・過去の資料の要旨）を行い、プロブレムリスト、イニシャルプランを作成する。
- 2) 担当患者さんの回診を毎日行い、カルテ記載を行う。患者さんの訴えを傾聴し、診察したうえで病態変化を把握し、検査結果や検査予定等を必要に応じ患者さんに伝える。
得た病歴、身体所見、検査所見は必ずその日のうちに評価を行い、次のプランを考える。
- 3) 入院から退院まで一貫して治療に参加する。主治医と密に連絡をとり、検査・処方・注射・処置・看護依頼など積極的に指示出しを行う。（原則 15 時まで）
- 4) 担当患者さんの特殊検査及び他科受診には可能な限り同行する。
- 5) 担当患者さんおよび御家族へのインフォームドコンセントの際は、主治医とともに必ず同席する。
- 6) 担当症例の病棟からの First Call に対応する。対応に迷う場合や緊急時は、すみやかに主治医に連絡し、相談する。
- 7) 週 1 回のカンファレンスにて担当症例のプレゼンテーションを行い、治療方針を確認する。
- 8) 担当症例の退院時は、すみやかにサマリーを作成し、主治医のチェックを受ける。

方略		方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1~7	小講義	1人	カンファ室	各60分	PC:パソコン・ スライド・プリント	上級医・指導医
2	1~6 10, 11	実務研修	1人	病棟・外来	適時	PC・プリント	上級医・指導医
3	7	実務研修	1人	透析室	適時	実物	上級医・指導医・ 透析技師・看護師
4	8	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	上級医・指導医・ 看護師・MSW 患者・家族
5	9	実務研修	1人	病棟・透析室	適時	PC	医師・看護師・ 薬剤師・透析技師・ 栄養士・MSW
6	9	カンファレンス	1人	病棟・透析室	適時	PC	同上
7	13	カンファレンス	1人	カンファ室	30分	PC	上級医・指導医
8	10	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	上級医・指導医
9	11	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	上級医・指導医・ MSW
10	12	シミュレーション	1人	病棟・透析室	各60分	PC・模型・実物	上級医・指導医
11	12	実務研修	1人	病棟・手術室 ・アンギオ室	適時	実物	上級医・指導医
12	13	スモールグループ 討議	1人	カンファ室	60分	PC	上級医・指導医

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 透析回診	病棟回診 透析回診	病棟回診 透析回診 腎外来見学	病棟回診 透析回診	病棟回診 透析回診
午後	病棟回診 検査 手術/PTA	病棟回診 腹膜透析 外来見学	病棟回診 検査 手術/PTA	病棟回診 検査 手術/PTA	病棟回診 検査 手術/PTA
夕刻	17:30~ CPC/ER/ 内科会	17:00~ カンファ レンス			17:10~ 医局会 (第1週のみ)

- ・週1回半日の時間内全科 ER 当番があります。
- ・時間内全科 ER 当番及び夜間休日当直業務はそちらが優先されます。前もって指導医にスケジュールを伝えて下さい。
- ・院外で行われる勉強会、研究会、講演会についても情報を提供します。一緒に参加しましょう。

作成必須レポート

腎不全（急性・慢性腎不全、透析）

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略1,2終了後
2	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略1,2終了後
3	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略1,2終了後
4	問題解決	形成的	論述試験	上級医・指導医	方略1,2終了後
5	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	方略1,2終了後
6	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医・栄養士	方略1,2終了後
7	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略1,3終了後
8	態度	形成的	観察記録	自己・上級医・指導医・ 看護師・MSW	ローテーション中 適宜
9	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医・看護師・ 薬剤師・栄養士・MSW	ローテーション中 適宜
10	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
11	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
12	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
13	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
14	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション 終了時

血液内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

血球異常の背景を理解し、鑑別に必要な検査を実施できるようにする。造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の診断・治療を経験し、免疫不全患者の感染症予防・診断・治療や、輸血・輸液管理など、化学療法の実行に必要な全身管理能力を身につける。

行動目標 SBOs

1) 基本的知識

- ① 血球細胞の分化と機能を説明できる。
- ② 凝集・凝固・線溶機序を説明できる。

2) 主要症候と診察

- ① 貧血の症状・所見・経過から、鑑別疾患を列挙できる。
- ② 出血傾向の症状・所見・経過から、鑑別疾患を列挙できる。
- ③ リンパ節腫脹・肝脾腫の所見をとることができる。

3) 基本となる診断・検査・手技

- ① 末梢血液像を作成・読影できる。
- ② 骨髄穿刺検査を実施できる。
- ③ 骨髄像を読影できる。
- ④ 凝固・線溶検査を実施し、結果を解釈できる。
- ⑤ 血漿蛋白・免疫グロブリン検査（電気泳動）を実施し、結果を解釈できる。
- ⑥ 全身CT検査を読影し、リンパ節腫脹を評価できる。
- ⑦ リンパ節検体の処理法を説明できる
- ⑧ 中心静脈ルートを確保できる。

4) 基本となる治療法

- ① 適切な補充療法（鉄、ビタミンB₁₂、葉酸）ができる。
- ② 悪性腫瘍に伴う疼痛緩和ができる。
- ③ 赤血球・血小板輸血を適切なタイミングで実施できる。
- ④ 白血球コロニー刺激因子（G-CSF）の適応を説明できる。
- ⑤ 好中球減少時の発熱に対し、初期対応ができる。
- ⑥ 免疫不全患者に対する感染予防策を説明できる。
- ⑦ 日和見感染症の診断・治療ができる。

【研修方略】

はじめに

血液内科は膠原病内科、総合内科と合同で診療にあたる。1年次研修では、「血液・膠原病・総合内科」として選択、2年次研修では、「血液内科」もしくは「血液・膠原病・総合内科」として選択を行う。2年次研修の場合は期間の選択が可能であるが、入院が長期に渡る疾患が多いため、短期の研修では新患に恵まれない可能性もある。少なくとも3週間以上の研修を推奨としている。

研修期間

内科の必修期間において総合内科・膠原病内科・老年内科と合同で4週間。
2年次選択、4週間以上を推奨。

研修内容

- 1) 受け持ち患者は血液疾患を中心とし、血液内科医師（+総合内科・膠原病内科医師）と共に診療にあたる。2年次研修では、総合内科の院外講師カンファレンス（通称栗カン）は参加を課さないが、受け持ち患者数を厚くして研修の充実をはかる。
- 2) 悪性疾患が多いため、患者と綿密にコミュニケーションをとり、精神的なケアに努め、良好な信頼関係を築けるようにする。「退院したら先生の外来でお願いしますわー！」と言われてもらえたら最高。
- 3) 血液悪性腫瘍の化学療法は、他領域の化学療法と比べてはるかに強力＝毒性が強く、適切な管理・支持療法が遂行できれば、他領域の化学療法は怖くなるはず。よって、将来内科医を目指す者のみならず、がん治療に携わるすべての者に経験して欲しい。
- 4) 担当医としての自覚を持ち、患者のことを最も把握しているのはもちろん、当該疾患の最新の治療方針につき情報収集に努めること。「上級医に教えてやる」ぐらいの気概でちょうど良い。
- 5) 血液内科では頻りに講演会・研究会があり、可能な限り参加する。仕事を残さないよう、時間管理をスマートに行うこと。
- 6) 毎月第3火曜日は、名古屋市立大学病院のリンパ腫カンファに参加する（当院の病理標本についても供覧検討する）。化学療法の遂行にあたり病理所見がいかに大切であるか、実感する。
- 7) 血液検査をはじめ検査室のスタッフと密に連携し、血球異常をみたら、自分の目でスメア標本を確認する習慣を身につける。血小板減少→凝集は？サイズは？破碎赤血球は？、異型リンパ球→どんな？と条件反射的にチェックできれば合格。
- 8) 研修後半までに、採血、輸血のオーダーを主体的に出せるようにする。そのためには、輸血製剤の供給・管理体制を含めバックグラウンドを理解する必要がある。

- 9) 骨髄穿刺を経験したときは、自分の受け持ち患者でなくても必ず上級医と連絡をとり骨髄像を讀影すること。骨髄像で何を観るべきか、何が診断できるのか、を知らなければ骨髄穿刺の適応を理解することはできない。
- 10) 時間の許す限り、血液内科の外来につくこと。近年の動向と、当院のタイトな病床管理体制から、多くの重要疾患が外来のみで管理されており、経験値のかさ上げを目指して欲しい。
- 11) その他：「総合内科」「膠原病内科」の項を参照。

週間スケジュール

「総合内科」の項を参照。

作成を期待するレポート

- 1) 貧血
- 2) 血小板減少
- 3) 悪性リンパ腫
- 4) 多発性骨髄腫
- 5) 発熱性好中球減少症

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1)①	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
1)②	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
2)①	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
2)②	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
2)③	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ラウンド時
3)①	技能	形成的	口頭試験	上級医・指導医	随時
3)②	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
3)③	技能	形成的	口頭試験	上級医・指導医	随時
3)④	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
3)⑤	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
3)⑥	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
3)⑦	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
3)⑧	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4)①	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
4)②	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4)③	問題解決	形成的	観察記録	指導医	随時
4)④	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
4)⑤	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4)⑥	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
4)⑦	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時

膠原病内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

自己免疫疾患の病態に関する深い理解のもと、心理社会的要素に配慮した診療を行えるようになるために、自己免疫疾患の疾患概念を理解し、膠原病内科の診療に必要な診察方法、検査方法、結果の解釈、ステロイド剤・免疫抑制剤の使い方、感染症対策などを習得する。

行動目標 SBOs

1) 基本的知識

- ① 免疫臓器・組織・細胞の構造と機能について説明できる。
- ② 免疫担当細胞の発生と分化について説明できる。
- ③ 筋・関節の構造について説明できる。

2) 主要症候と診察

- ① リウマチ性疾患の特性に配慮した病歴を取ることができる。
- ② 主要な皮疹（紅斑、紫斑、浮腫、皮膚硬化、結節性紅斑）の鑑別ができる。
- ③ 口腔内・結膜の乾燥状態の所見がとれる。
- ④ 関節所見（腫脹、圧痛、変形など）がとれる。
- ⑤ 筋所見（疼痛、脱力など）がとれる。
- ⑥ レイノー現象の鑑別ができる。
- ⑦ 胸部病変（間質性肺炎、漿膜炎、肺高血圧症、心筋障害）の有無を把握できる。
- ⑧ 腎・尿路系病変の有無を検索できる。
- ⑨ 難治性疾患の患者心情に配慮し、接することができる。

3) 基本となる診断・検査・手技

- ① 血清免疫グロブリン測定の意義と適応を述べることができる。
- ② 血清補体価測定の意義と適応を述べることができる。
- ③ 自己抗体（疾患標識抗体、抗核抗体、抗 DNA 抗体、リウマトイド因子、抗好中球胞質抗体を含む）測定の意義と、適応を述べることができる。
- ④ 組織生検（リンパ節・皮膚・腎・口唇・甲状腺）を実施（指示）できる。
- ⑤ 実施した組織生検の結果を解釈できる。
- ⑥ 関節 X 線写真の読影ができる。
- ⑦ 筋電図検査の意義と、適応を述べることができる。
- ⑧ 骨密度測定の意義と、適応を述べることができる。
- ⑨ 肺線維症マーカー（KL-6 など）の意義と、適応を述べることができる。
- ⑩ まれな症状について、成書や文献検索を行う。

4) 基本となる治療法

- ① 副腎皮質ステロイド治療の適応判断、投与方法の選択、副作用管理が適切にできる。
- ② 各種免疫抑制剤の適応判断、投与方法の選択、副作用管理が適切にできる。
- ③ 疾患修飾性抗リウマチ剤の適応判断、投与方法の選択、副作用管理が適切にできる。
- ④ 血液浄化療法、血漿交換療法の適応を述べることができる。
- ⑤ リウマチ・膠原病に必要な生活指導（安静度・食事療法・運動を含む）・リハビリテーションの適応判断、指示と管理を行うことができる。
- ⑥ 日和見感染症の対策を行うことができる。

【研修方略】

膠原病内科は血液内科、老年内科と合同で診療にあたっており、研修スケジュールは概ね共通である。2年次研修で「膠原病内科、血液内科、老年内科のいずれか」を選択することにより膠原病疾患の診療に携わることが可能である。基本は外来診療が主体であり、膠原病科を選択した場合には、指導医の外来診療に立ち会い、患者の診察も行う。

研修期間

内科の必修期間において総合内科・血液内科・老年内科と合同で4週間、2年次選択

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務 もしくは 外来診察	病棟業務	病棟業務 もしくは 外来診察	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務 もしくは 外来診察	病棟業務	病棟業務	病棟業務 もしくは 外来診察
17時30分	内科会/ Journal Club	病棟カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1) ①	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
1) ②	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
1) ③	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
2) ①	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ②	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	随時
2) ③	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ④	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ⑤	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ⑥	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	随時
2) ⑦	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ⑧	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
2) ⑨	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医・ 看護課長	随時
3) ①	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
3) ②	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
3) ③	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
3) ④	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
3) ⑤	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
3) ⑥	技能	形成的	実地試験	指導医	ローテーション終了時
3) ⑦	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
3) ⑧	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
3) ⑨	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
3) ⑩	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
4) ①	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4) ②	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4) ③	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	随時
4) ④	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	随時
4) ⑤	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医・ 看護課長	随時
4) ⑥	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医・ 看護課長	随時

脳神経内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

将来専攻する専門科に関わらず、救急対応や担当患者対応ですべての医師に必要とされる脳神経内科領域のプライマリケアができるようになるために、神経症候の原因・メカニズムを理解し、病巣部位・病因の2面から捉えるように心掛け、適切な検査計画法および治療法を習得する。

行動目標 SB0s

- 1) 患者あるいは家族からの的確な病歴を迅速に取ることができる。
- 2) 一般身体所見、神経学的所見を迅速に取ることができる。
- 3) 病歴と神経学的所見から脳血管障害の病型を推測できる。
- 4) 脳血管障害の鑑別に必要な検査を必要に応じて適切な順序でオーダーできる。
- 5) 脳梗塞の病型に応じた急性期治療についてどのようなものがあるか説明できる。
- 6) 急性期～慢性期の脳梗塞再発予防について説明できる。
- 7) 退院後の脳梗塞の経過観察方針を患者に説明できる。
- 8) 治療可能な認知症と治療困難な認知症との鑑別ができる。
- 9) 認知症の進行度を長谷川式簡易知能評価スケールなどで表現できる。
- 10) 妄想などの問題行動の治療法を説明でき、重症例は指導医と相談して対処できる。
- 11) 家族、介護者に認知症患者の対応について指導できる。
- 12) パーキンソン症状をきたす疾患の鑑別ができる。
- 13) パーキンソン症候群の鑑別に必要な検査のオーダーができる。
- 14) 不随意運動にはどのようなものがあるか説明できる。
- 15) 神経難病に罹患した患者・家族の精神的苦悩に配慮する。
- 16) 特定疾患の申請、介護保険制度の利用法などについて説明できる。
- 17) 意識障害、項部硬直、ケルニッヒ徴候の有無を正確に診断できる。
- 18) 腰椎穿刺ができ、その結果から髄膜炎の有無、原因となる病原体の鑑別ができる。
- 19) 原因病原体ごとの治療指針の概要を説明できる。
- 20) 診断、検査方針、治療内容、予後を患者・家族に説明できる。

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において脳神経外科と併せて4週間、2年次選択

研修内容

入院患者担当医として主治医とともに実際の診療に当たりながら実地修練（病歴聴取、一般身体所見・神経所見の把握、検査計画の立案、鑑別診断、治療計画の作成、患者・ご家族への病状説明、など）を行う。初診外来あるいは再診患者外来を見学し、脳神経内科診療の基本的事項について研修する。筋電図、脳波などの電気生理検査や筋生検・神経生検などの病理検査、また脳卒中をはじめ各種神経疾患の画像検査について研修する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診 電気生理	病棟回診 リハビリ カンファランス
午後	13:30～ 入院患者/外来 新患カンファランス 15:00～ 初診外来	病棟回診	15:30～ 病棟カンファランス (病棟) 脳波読影	病棟回診	15:00～ 初診外来
夕刻					17:30～ 脳卒中 カンファランス (脳外科と合同)

作成必須レポート

- 1) 脳血管障害

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時
2	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時
3	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
4	想起	形成的	観察記録	上級医	ローテーション中
5	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
6	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
7	想起	形成的	観察記録	上級医	ローテーション中
8	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
9	技能	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
10	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
11	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
12	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
13	想起	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
14	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
15	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
16	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
17	技能	形成的	観察記録	上級医	ローテーション中
18	技能・解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
19	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
20	技能	形成的	観察記録	上級医	ローテーション中

老年内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

高齢者を全人的に診療できる医師となるために、高齢者の身体・心理的特徴を理解し、患者の社会的背景を考慮し、介護・福祉等の他職種と協働する姿勢を示し、高齢者に頻度の高い慢性疾患の診療能力を身につける。

行動目標 SBOs

- 1) 高齢者の生理的特徴を述べる。(想起)
- 2) 高齢者総合機能評価 (CGA) を施行する。(技能)
- 3) CGA から患者と患者を取り巻く問題点を抽出できる。(解釈)
- 4) 身体的、心理的に障害を持った高齢者の心情に共感する態度を示す。(態度)
- 5) 高齢者に多い薬剤の副作用を述べる。(想起)
- 6) 福祉、介護、行政と連携した医療計画を実行できる。(問題解決)
- 7) 認知症の診断ができる。(解釈)
- 8) 介護保険医師意見書を作成する。(技能)
- 9) 患者・家族の退院後の生活支援について配慮する。(態度)
- 10) 医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、MSW:医療ソーシャルワーカー等と協力して診療にあたる姿勢を身につける。(態度)
- 11) 在宅生活の為に他院へ並存する疾患と社会的背景を網羅した適切な診療情報提供書を作成できる。(技能)
- 12) せん妄、認知症周辺症状への薬物的、非薬物的介入ができる。(問題解決)

【研修方略】

研修期間

内科の必修期間において総合内科・血液内科・膠原病内科と合同で4週間、2年次選択

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1・5・7	小講義	1人	カンファ室	20分×3	PC:パソコン	指導医
2	2・3・4・6・ 7・8・9・11	実務研修	1人	外来	適時	なし	指導医・患者 患者家族
3	4・6・9・10	実務研修	1人	往診先	適時	実物	指導医・看護師
4	8	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	指導医・
5	9	実務研修	1人	特養・通所リ ハ	適時	PC	指導医・看護師・ 介護師・PT・OT

6	3・4・9・10	カンファレンス	1人	医療相談室	適時	PC	MSW・ケアマネ
8	10	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	上級医・指導医
9	11	実務研修	1人	病棟	適時	PC・プリント	上級医・指導医・MSW
10	12	実務研修	1人	病棟	1時間	なし	指導医・チームメンバー

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	老健往診	通所リハ	訪問診療	医療相談室
午後	地域包括支援センター	認知症外来	認知症外来	老年科外来 DST ラウンド	医療相談室
夕刻	17:30～ ジャーナルクラブ CPC/内科会	17:15～ 通所リハ カンファレンス			17:30～ 医局会 (第4週のみ)

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	口答試験	指導医	方略1終了後
2	技能	形成的	観察記録	指導医	適宜
3	解釈	形成的	実地試験	指導医	適宜
4	態度	形成的	観察記録	指導医・ケアマネ・自己	適宜
5	想起	形成的	口答試験	指導医	方略1終了後
6	問題解決	形成的	実地試験	指導医・MSW・ケアマネ	適宜
7	解釈	形成的	口答試験	指導医	適宜
8	技能	形成的	実地試験	指導医	適宜
9	態度	形成的	観察記録	指導医・看護師	適宜
9・10	態度	形成的	レポート	自己	終了時
11	技能	形成的	実地試験	指導医・紹介先医師	適宜
12	問題解決	形成的	口頭試験	チームメンバー多職種	方略10中

救急科研修方略・評価

【研修目標】

はじめに

当院は全診療科と連携し1次から3次までのあらゆる救急患者に対応する「ER型救急」体制をとっている。内因性疾患から多発外傷、中毒、小児疾患など様々な疾患を経験できます。また地域災害拠点病院である当院は、近年の災害に対する認識の高まりとともに、有事に対応すべく積極的に災害医療に取り組んでいる。

さらに院内・院外救急医療充実のため、定期的な救急隊との症例検討をはじめ、ICLS/BLS/JPTECなど各種救急講習会にも参加している。

救急科では救急専従医・各科専門医の指導の下、一例一例診療経験を積み重ねて幅広い視野を持った全人的な医療が実践できるようになることを目標としている。

一般目標 GIO

生命や機能予後に係る疾病に対して、緊急度・重症度を的確に判断し、初期治療を実践する能力を習得するために、幅広い救急疾患の病態・治療を理解するだけでなく、救急医療におけるチームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力を高め、安全で円滑な診療を実践する能力を身につける。そのためには地域のメディカルコントロール体制を含む救急医療システムを理解することも重要である。

行動目標 SBOs

1) 救急診療の基本的事項を理解する

- ① 救急患者に対して迅速にバイタルサインの把握ができる
- ② あらゆる救急疾患の病態の概略を理解し、身体所見を的確にとれる。
- ③ 患者の病態・診断・治療方針について自らの意見を指導医へ適切に報告する能力を身につける。
- ④ 重症疾患への初期診療ができる
 - 一次救命処置 (BLS)
 - 二次救命処置 (ACLS)
 - 外傷初期診療 (JATEC) (特に Primary Survey)
- ⑤ 症例検討会での適切なプレゼンテーション能力を身につける
- ⑥ 災害時の救急医療体制を理解し、自己および組織の役割を理解できる
- ⑦ 感染症の有無にかかわらず標準予防策を理解し、実践する

2) 救急診療に必要な検査手技に習熟する

- ① 必要な検査を選択・指示し自ら実践することでその結果を総合的に解釈できる

(X線、CT、MRI、心電図、超音波検査、血液検査、動脈血ガス分析検査)

- ② 緊急性の高い異常所見を指摘し、初期治療計画を立てることができる
- 3) 経験しなければならない手技を習得する。
 - ① 気道確保を実施できる
 - ② 気管挿管を実施できる
 - ③ 適切な胸骨圧迫を実施できる
 - ④ 除細動の適応を理解し、的確に実施できる
 - ⑤ 注射法（皮内、皮下、筋肉内、末梢静脈路確保）を実施できる
 - ⑥ 救急薬品（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗痙攣薬、鎮痛薬など）の薬理を理解し、的確に使用できる
 - ⑦ 採血法を実施できる（静脈血、動脈血）
 - ⑧ 正しい血液培養の採取法を実施できる
 - ⑨ 導尿法を実施できる
 - ⑩ 各種穿刺法（胸腔、腰椎）を実施できる
 - ⑪ 胃管の挿入と管理ができる
 - ⑫ 局所麻酔法を実施できる
 - ⑬ 創傷の局所療法（止血、縫合、洗浄、デブリードマン）ができる
 - ⑭ 典型的な骨折、脱臼、捻挫の診断および固定を実施できる
- 4) 頻度の高い救急疾患の緊急度と重症度を判断し鑑別することができる。
 - ① ショック（循環血液量減少性、心源性、心外閉塞・拘束性、血液分布異常性）
 - ② 意識障害（脳血管障害、急性中毒、代謝性疾患、頭部外傷など）
 - ③ 呼吸困難（気道閉塞、呼吸不全、心不全、中枢性疾患など）
 - ④ 不整脈（心室細動、心室頻拍、徐脈性不整脈、上室性頻拍など）
 - ⑤ 胸痛（虚血性心疾患、胸部大動脈瘤、大動脈解離、気胸、肺塞栓など）
 - ⑥ 腹痛、急性腹症（消化管穿孔、イレウス、急性虫垂炎、胆石症、急性膵炎、腸間膜動脈塞栓症、卵巣嚢腫茎捻転、子宮外妊娠破裂など）
 - ⑦ 発熱・体温異常（感染〔敗血症〕、膠原病、熱中症、低体温など）
 - ⑧ 頭痛（一次性頭痛、二次性頭痛）
 - ⑨ めまい（末梢性・中枢性めまい、前失神）
- 5) 救急医療システム
 - ① 救急医療体制を説明できる
 - ② 救急車同乗実習を通じて、病院前救急および救急救命士の業務を理解する
 - ③ 救命救急センターの役割・責任について説明できる
- 6) 災害医療
 - ① 災害時の CSCATTT について理解する

(Command & Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transport)

② 多数傷病者発生時のトリアージの概念を理解し実践できる

【研修方略】

研修期間

(必修期間) 1年次 7週間、2年次 4週間

研修内容

- 1) 救急専門医および専門各科指導のもと、救急搬送患者の初期診療を行い、救急における基本診療手技を身につける
- 2) 隔月 1 回の救急隊との症例カンファレンスにできるだけ参加する
- 3) Morning Report にて研修医同士で症例を共有し、知識を深める
- 4) 救急専門医による講義を適時行い、病態・疾患に対する理解を深める
- 5) 院内の災害訓練に参加し、災害に対する基本的理解を深める
- 6) Off the job training として救急講習会 (ICLS/BLS/JPTEC/JATEC など) の受講を推奨する

救急診療は一般の外来診療と異なる点がいくつかある。緊急度・重症度の迅速な判断と適切な治療が求められるだけでなく、その過程においては看護師、放射線技師、検査技師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師など幅広いスタッフと協調して診療を進めていかなければならない。また、救急外来へ来院、搬送される患者さんだけでなく、その家族の方の不安も大きい。どれだけ診療が忙しくても、患者さんとその家族に声をかけ、丁寧な対応をすることが円滑な救急診療につながっている。

一人で抱え込まず、わからないことは上級医や看護師に相談を行うこと。

一例一例症例を積み重ね、その症例を大切にしていくことが今後専門科へ進んだ後にも必ず役に立ちます。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7時30分 8時00分	Morinig Report				Morinig Report
午前	E R 当番	E R 当番	E R 当番	E R 当番	E R 当番
午後	E R 当番	E R 当番	E R 当番	E R 当番	E R 当番
午後5時 30分頃～	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

【研修評価】

救急外来診療時に、フィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。研修中に経験した症例のレポートを作成し、合格水準に達するまで指導する。

SBOs	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
1) ①	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
①	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
②	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
③	技能	形成的	観察記録	指導医	振り返り時
④	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテート中
⑤	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
2) ①	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテート中
②	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテート中
3) ①	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
②	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
③	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
④	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑤	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑥	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑦	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑧	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑨	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑩	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑪	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑫	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
⑬	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中

⑭	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中
4) ①	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
②	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
③	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
④	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
⑤	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
⑥	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
⑦	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
⑧	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
5) ①	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション中
②	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
③	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
6) ①	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
②	解釈	形成的	口頭試験	指導医	ローテーション終了時

麻酔科研修方略・評価

【研修目標】

はじめに

麻酔について学ぶことは、呼吸・循環をはじめとする全身管理の基礎を学ぶことにつながり、将来の進路にかかわらず、医師として最低限の生命危機管理知識と技術を習得する絶好の機会である。1年次に麻酔科をローテートする意味はここにあるので、積極的に参加することを望みます。

一般目標 GIO

個々の症例に応じた最適な麻酔法を安全性に配慮した方法で選択し、かつ術前・術中・術後管理を安全に実践する麻酔管理を経験することを通して、生命危機管理医学の考え方を理解し、呼吸・循環、輸液・電解質をはじめとする全身管理に必要な知識と、気管挿管・ルート確保といった全身管理に必要な最低限の技術を習得する。

行動目標 SBOs

- 1) 手術患者の状態の評価（現病歴、既往歴、特殊な疾患の有無、術式の問題点等）をする。（解釈）
- 2) 術前回診の結果を上級医にプレゼンテーションすることができる。（想起）
- 3) 術前の評価に応じて適切な麻酔法を選択できる。（問題解決）
- 4) 鎮静・鎮痛・筋弛緩薬剤について説明でき、投与ルートの管理、投与量（速度）、も含めて使いこなすことができる。（技能）
- 5) 患者の状態に応じて、適切な挿管方法が選択・実施できる。（問題解決）
- 6) 患者の状態に応じて、適切な静脈路確保が選択できる。（問題解決）
- 7) 選択した静脈路が確保できる。（技能）
- 8) 適切な用手的人工呼吸が行える。（技能）
- 9) 最も基本的な人工呼吸が行える。（技能）
- 10) 緊急薬剤の薬理作用（副作用も含む）について説明でき、投与ルートの管理、投与量（速度）、も含めて使いこなすことができる。（技能）
- 11) 以上の事柄を麻酔管理を通して理解し、全身管理の基礎を理解し、それに必要な最低限の技術も身に付ける。（問題解決）

【研修方略】

研修期間

1年次6週間、2年次選択

研修内容

- 1) 日々の麻酔症例を通して、術前評価、術中管理、術後管理（主に ICU において）を実践する。
- 2) 各種処置・手技を手術室の中で実践する。
- 3) 手術患者の状態の評価（現病歴、既往歴、特殊な疾患の有無、術式の問題点等）ができ、適切な麻酔計画（導入法、麻酔法など）の立案を指導医とのもとで行う。
- 4) 術中起こりうる事態について予見し、その対策を学ぶ。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30～ 9:00	ICU カンファ レンス	ICU カンフ ァレンス	ICU カンフ ァレンス	ICU カンフ ァレンス	ICU カンフ ァレンス
午前	麻酔管理	麻酔管理	術後回診 術後回診	麻酔管理	麻酔管理
午後	麻酔管理	麻酔管理		麻酔管理	麻酔管理
夕刻	術前回診 術後回診	術前回診 術後回診		術後回診 術後回診	術後回診 術後回診
夜間					麻酔待機

注) 当直明けは、安全確保のため麻酔管理には組み入れない。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
2	想起	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
4	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
5	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
6	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
7	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
8	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
9	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
10	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
11	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション終了時

外科研修方略・評価

【研修目標】

一般目標 GIO:

将来専攻する専門科に関わらず、日常診療で頻回に遭遇する救急外科疾患や患者への対応で必要とされる外科のプライマリケアができるようになるために、医師としての必要な態度・人間性を基本とし、手術のみならず術前評価・術後管理・退院後の治療の重要性を理解し、患者の社会的背景・倫理的配慮に心掛け、外科領域の基本的診療能力を習得する。

行動目標 SBOs:

A 行動目標

(1) 患者－医師関係

患者および患者家族と良好な関係を築くために

- 1) 患者・家族の社会的側面を把握できる。
- 2) 患者・家族・医師がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントとは何か、を理解できる。
- 3) 患者へのプライバシーの配慮ができる。

(2) チーム医療

院内の幅広い職種スタッフと協調する為に

- 1) 上級医師との円滑なコミュニケーションがとれる。上級医師に対して適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) コメディカルスタッフと連携ができる。

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行うために

- 1) 臨床上の問題点(外科領域と他科の領域に渡ることを含めて)を適切に把握し、当該患者への対応ができる。
- 2) 研究や学会活動に関心を持つ。外科雑誌論文内容が把握できるようにする。
- 3) 複数の科に渡って診療が必要な場合があることを理解する。

(4) 安全管理

安全な医療を行うために

- 1) 外科手技を実施するにあたり、安全確認の考え方を理解し、遂行できる。
- 2) 院内感染対策を理解し、実施できる。手術室における清潔操作について理解する。

(5) 症例提示

チーム医療の実践と自己研鑽に不可欠な、症例提示と意見交換を行うために

- 1) 症例提示と討論ができる。
- 2) 院内カンファレンスや学術集会に参加する。

(6) 医療の社会性

医療のもつ社会的側面を理解するために

- 1) 保健医療法規・制度のなかで医療が行われていることを理解する。
- 2) 医の倫理・生命観が手術適応や手術方針を決める上で関与していることを理解する。

B 経験目標

(1) 医療面接

患者・患者家族との信頼関係を構築するために

- 1) コミュニケーションスキルを身に付け、患者の病態を適切に把握できる。また、その記録ができる。
- 2) 手術前・手術後のインフォームドコンセントの重要性を理解できる。

(2) 基本的な所見のとり方

病態が把握できるようにするために

- 1) 日本の癌取り扱い規約について理解する。がん患者の術前・術中・術後所見について評価ができ、その記録ができる。
- 2) UICC TMN 分類について理解する。
- 3) 腹膜炎・腸閉塞の腹部所見について理解する。
- 4) 腹部・胸部外傷患者の所見について理解し、治療が同時進行で行われることを学ぶ。

(3) 外科基本手技

外科基本手技を習得するために

- 1) ドレーン・チューブ類の管理ができる。

- 2) 局所麻酔法を実施できる。
- 3) 成人の腰椎麻酔法を実施できる(腰椎穿刺を行う)。
- 4) 創部確認とガーゼ交換を実施できる。
- 5) 皮膚縫合・糸の結紮を実施できる。
- 6) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- 7) 気管挿管と全身麻酔の維持。

(4) 外科治療への参加

外科治療の実際を理解するために

- 1) 手術助手として参加し、手術の実際を理解する。
- 2) 手術中および手術摘出材料から手術所見を把握することができる。
- 3) 手術の術前処置について理解する。
- 4) 術後の管理について理解する。
- 5) 術後合併症に対する処置について理解する。

必修項目 外科症例(手術を含む。)を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出すること

【研修方略】

研修期間：1年次6週間、2年次選択

研修内容：

- 1) 担当患者においては、術前・術後のICに同席する。
- 2) 外科疾患の救急患者来院時には、指導医とともに診察を行い、診断、治療方針をたてる。
- 3) 手術助手、麻酔助手を中心に外科割り当て表により研修する(研修医としての当直、ER当番、予防接種、勉強会などは優先)。担当医として受け持った患者については術前診断・術中診断・術後経過について評価し、それを記載する。
- 4) 外科全身麻酔手術症例の麻酔術前、術後回診を行う。患者が抱えている随伴疾患について把握し、手術のリスクを評価し、チェック票に記載する。
- 5) 毎週金曜日15時から行われる外科カンファレンスにおいて、担当手術患者の、術前プレゼンテーション、手術報告を行う。
- 6) 外科文献抄読会で1回発表する。
- 7) 手術室では、創処置、皮膚縫合、ルート確保、気道確保、など基本的な手技を習得する。

- 8) 病棟では、術後の傷処置・ドレインの管理について習得する。
- 9) 毎週木曜日朝8時から、消化器外科・内科・放射線科合同カンファレンスに参加する(管理会議室)。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
8時				消化器内科・ 外科・放射線 科合同カン ファレンス	
午前	手術、回診・病棟業務				
12時	昼食休憩				
午後	手術・検査など				15:00～ 手術症例カ ンファレン ス

作成必須レポート：*外科、消化器内科で経験も可

- 1) 胃癌*
- 2) 大腸癌*
- 3) 胆石症*

・手術を含む外科症例を1例以上受け持ち、術前診断、術中診断、術後病理診断について評価する。術後管理や外来フォローアップ計画も含めて症例レポートを提出すること。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。外科手術例レポート作成を合格水準に達するまで指導する。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
A(1)	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
A(2)	態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
A(3)	問題解決	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
A(4)	知識・技能	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
A(5)	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
A(6)	解釈	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
B(1)	態度	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
B(2)	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
B(3)	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
B(4)	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時

整形外科研修方略・評価

【研修目標】

一般目標 GIO :

運動器の救急疾患・外傷から慢性疾患に対応できる基本的診療能力を獲得する。

行動目標 :

1. 運動器の救急疾患・外傷から慢性疾患について病歴を記載できる。
2. 外傷に伴う全身的、局所的症状を述べることができる。
3. 神経、血管、筋腱損傷の症状を述べるができる。
4. 多発外傷の重症度を判断できる。
5. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
6. 脊髄損傷の症状を述べるができる。
7. 創傷の洗浄、デブリドマン、縫合ができる。
8. 慢性疾患を列挙し、その自然経過、病態について述べるができる。
9. 後療法の重要性を理解できる。
10. 症例検討会で担当症例のプレゼンテーションを行うことができる。

【研修方略】

研修期間 : 1 年次 2 週間。2 年次選択。

研修内容 :

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1~9	講義	1 人	カンファ室	適時	PC	上級医・指導医
2	1~9	実務研修	1 人	外来・病棟	適時	実物	上級医・指導医
3	10	スモールグループ討議	1 人	カンファ室	適時	PC	上級医・指導医・ 看護師

週間スケジュール :

	月	火	水	木	金
8 時 15 分	C.C.	C.C.	C.C.	C.C.	C.C.
午前	手術 (外来)	外来 (手術)	手術 (外来)	外来 (手術)	手術 (外来)
午後	手術	手術	手術	手術	手術

C.C. : 症例検討会 (外来)

午前は新患外来を担当あるいは手術に参加する。外来診療では、指導医から理学所見や画像診断、治療方針などについて指導を受ける。

午後は原則として手術に参加するが、時間外救急患者の診療には可能な限り参加する。

作成必須レポート：

- 1) 高エネルギー外傷・骨折

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
2	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
3	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
4	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
5	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
6	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
7	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
8	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
9	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	方略 1,2 終了時
10	技能	技能	実地試験	上級医・指導医・ 看護師	期間中適宜

小児科

【研修目標】

一般目標 GIO

将来専攻する専門科に関わらず、救急対応や担当患者対応ですべての医師に必要とされる小児科領域のプライマリケアができるようになるために、小児の特性および疾患を理解し（知識領域）、患児および親との良好な関係を築けるように心掛け（態度領域）、基本的な疾患の診断・治療・手技を習得する（技能領域）。

行動目標 SBOs

- 1) 小児の診察ができる。（技能）
- 2) 小児の間診の特徴を理解している。（解釈）
- 3) 小児の身体および検査値の特徴を理解し、異常の有無を判断できる。（解釈）
- 4) 小児感染症（ウイルス・細菌）の症状を説明できる。（想起）
- 5) 小児の発達の特異性に配慮する。（態度）
- 6) 患児の親に説明できる。（態度）
- 7) 小児感染症に対する治療方針を立案できる。（問題解決）
- 8) 小児喘息の発作時の治療ができる。（問題解決）
- 9) 小児けいれんに対する診断・治療のアプローチができる。（問題解決）
- 10) 以下の処置を自ら実施できる。（技能）
 - ① 新生児の足底採血
 - ② 乳幼児の採血および輸液ルートの確保
 - ③ 導尿
 - ④ 経管栄養チューブの挿入
 - ⑤ 超音波診断装置の描出技術

【研修方略】

研修期間

1 年次 4 週間、2 年次選択 2 週間以上

研修内容

1) 入院受け持ち業務

一般外来、救急外来から入院する小児科の急性疾患の症例を、3 人を限度に指導医とともに受け持ちをする。

外来の受診を見学し、入院までの流れを理解する。

慣れるにしたがって、小児の慢性疾患の症例を受け持ちとして願います。

NICU 病棟では低出生体重児、病的新生児の入院時の救急処置を見学する。可能であれば採血も行う。病棟当番として帝切分娩の立ち会い、新生児搬送（トランスポート）にも指導医とともに同行して処置を見学する。

2) 病棟業務

診察医の指導の下で問診、診察内容、処置の仕方を学ぶ。同時に小児の輸液ルートの確保を修得する。また新生児、乳幼児、学童、思春期の児の扱いに慣れる。

教育的症例があれば、引き続き研修後も受け持ちになれるように配慮する。

3) 病棟回診

必ず朝夕一回は患者診察をすること。指示はなるべく早く出すようにして、緊急・臨時の場合は必ず看護師に声をかけてからオーダーすること。検査・処置は進んでやるようにつとめること。必ず検査・点滴・抗生剤など指導医のもとでオーダーすること。

4) カンファレンス

担当患者のプレゼンテーションを行い、治療方針について指導医とともに検討する。

5) 抄読会

ローテート研修中に英文雑誌より小児科関連の題材を選択し、発表する。

6) 一般外来研修

4 週間ローテートのうち計 1 週間、初診患者の診察・1 ヶ月健診・予防接種を指導医のもとで行なう。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8 時 30 分	NICU 採血	NICU 採血	NICU 採血	NICU 採血	NICU 採血
午前	病棟回診 検査処置	部長回診 検査処置 一般外来	病棟回診 検査処置 一般外来	検査処置 一般外来	部長回診 検査処置 一般外来
午後	病棟回診 検査処置	病棟回診 検査処置 予防接種 一般外来	抄読会 病棟回診 検査処置	病棟回診 検査処置 予防接種 一般外来	カンファレンス 病棟回診 検査処置

病棟回診は主に小児病棟、検査処置は小児病棟と NICU 病棟の両方です。

担当指導医の指示に従い、外来診療（一般外来）を行います。診療日は、担当指導医により曜日が異なります。

夜間・休日緊急入院処置の待機当番があります。

【研修評価】

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	観察記録	指導医	回診時
2	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
3	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	回診時
4	想起	形成的	口頭試験	指導医	ローテート中
5	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
6	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
7	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテート終了時
8	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテート終了時
9	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテート終了時
10	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中

産婦人科研修方略・評価

【研修目標】

一般目標 GIO :

産科周産期領域、婦人科領域を中心に、該当領域の知識を習得、女性科の特性を理解し、患者・家族・スタッフとのコミュニケーションに留意し、初期対応を行える技能を修得する。一般臨床家としての妊娠中の女性の治療に対し必要最小限の対応を涵養する。

行動目標 SBOs :

- 1) ノンストレステストを用いて胎児の状況を評価する。(解釈)
- 2) 実際の分娩の進捗状況について言及する。(解釈)
- 3) 器官形成期をはじめ、全妊娠期間、授乳期間を通じて至適薬剤の使用について立案する。(問題解決)
- 4) 妊娠中のマイナートラブルについて治療方針を立案する。(問題解決)
- 5) 帝王切開術を含む急速遂娩の適応について説明する。(想起)
- 6) 入院中の病態に応じた(妊婦含む)輸液管理・食事療法について立案する。(問題解決)
- 7) 分娩に立会い、分娩誘導や産後の処置を上級医とともに実施する。(技能)
- 8) 麻酔・手術(帝王切開術、婦人科手術等)を指導医/上級医とともに、助手・術者として実施する。(技能)
- 9) 妊婦健診や外来診療を上級医について行い産婦人科腹部エコーの解釈や内診所見のとり方を身につける。(技能)
- 10) 上級医とともに症例に応じた婦人科がん化学療法について立案する。(問題解決)
- 11) 出生証明書、他科依頼箋や診療情報提供書を作成する。(技能)
- 12) 女性の羞恥心に配慮して診療にあたる姿勢を身につける。(態度)
- 13) 担当症例のプレゼンテーションと病態についてのプレゼンテーションを行う。(技能)
- 14) 医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、MSW：医療ソーシャルワーカー等と協力して診療にあたる姿勢を身につける。(態度)

【研修方略】

研修期間 : 2年次4週間。1年次外科系選択及び2年次選択。

研修内容 :

- ① 前2週間と4週目は既存の入院患者について上級医、指導医のプレゼンを受け病棟担当等に付いて産婦人科の基本処置、業務(内診など理学的診察、創処置、分娩介助、手術操作、指示出し等)について学ぶ。
- ② 3週目、午前中は外来付きになりその時入院扱いになった患者の**担当医**となり、上級医と

ともにその診療にあたる。また症例検討の場では担当患者のプレゼンを行う。

- ③ 研修期間中に最低 10 分以内に担当医とともに立会い、分娩、産褥について理解を深める。
また分娩進行中より産婦に関われればなお良い。
- ④ **担当医**として担当した患者について症例レポートを作成し、研修終了時に提出する。
- ⑤ 麻酔科扱いを除く全手術症例について術前・術後診察を担当し出来るだけ全手術に助手、麻酔医として参加する。
- ⑥ 当直・ER 当番は優先されるが、産科当直とともに夜間の産科救急・分娩の待機日を設定し経験する。

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1, 3, 4 5, 6, 10	小講義	1 人	病棟	適時	PC：パソコン・ 紙	上級医・指導医
2	1, 3, 4, 5 6, 10, 11	実務研修	1 人	病棟・外来	適時	PC・紙	上級医・指導医 病棟薬剤師
3	2, 7	実務研修	1 人	病棟・分娩室	適時	実物・紙	上級医・指導医 助産師・看護師
4	8	実務研修	1 人	病棟・手術室	適時	実物	上級医・指導医・
5	9	実務研修	1 人	病棟・外来	適時	PC・実物	上級医・指導医 看護師
6	12	実務研修	1 人	病棟・外来	適時	PC・実物	同上
7	13	カンファレンス	1 人	カンファ室	60 分	PC	上級医・指導医
8	14	実務研修	1 人	病棟	適時	PC	医師・助産師 看護師・薬剤師 他のコメディカル
9	14	カンファレンス	1 人	病棟	適時	PC・紙	同上

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 or 外来	病棟回診 or 外来	病棟回診 or 外来	病棟回診 or 外来	病棟回診 or 外来
午後	手術	手術	手術	産褥健診 産婦人科 カンファレンス 小児科合同 カンファレンス (第1、第3週)	手術

作成必須レポート：

- 1) 妊娠・出産

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	前2週間終了後
2	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
3	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
4	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	前2週間終了後
5	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	前2週間終了後
6	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医・ 病棟薬剤師	前2週間終了後
7	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート終盤
8	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート終盤
9	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート 終了時
10	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
11	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜

12	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医・看護師	ローテート中 適宜
13	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
14	態度	形成的	観察記録	指導医をはじめ関連職種	ローテート 終了時

在宅医療（訪問看護）

【研修目標】

一般目標 GIO

在宅医療に対するニーズを立脚した診療を行うために、在宅での医療・福祉・介護の資源を理解し、生活背景を思い遣る気持ちを持ち、多職種のリーダーとして行動する。

行動目標 SBOs

- 1) 頻度の高い慢性疾患患者を外来管理ができる。(解釈)
- 2) 在宅患者・家族の心情に共感する態度を示す。(態度)
- 3) 患者の社会的背景を配慮する。(問題解決)
- 4) 福祉・介護職へ適切に指示ができる。(問題解決)
- 5) 頻度の高い疾患の初期診療とトリアージができる。(解釈)
- 6) 患者・家族の入院前、入院中、退院後の具体的な生活支援について配慮する。(態度)
- 7) 他科、他院へ適切なタイミングで紹介できる。(問題解決)
- 8) 在宅生活の為に並存する疾患と社会的背景を網羅した適切な診療情報提供書を作成できる。
(技能)
- 9) 適切な社会的支援についての書類（身体障害者・特定疾患・介護保険 等）を作成する。
(技能)
- 10) 地域の医療、保健、福祉資源役割を述べる。(想起)
- 11) 地域で保健、予防活動を主宰できる。(技能)
- 12) 死亡診断・宣告・死亡診断書作成を適切に行う。(技能)

【研修方略】

研修期間

2年次 1週間

研修内容

・1週間を院内診療、在宅診療往診、在宅看護に同行診療を行う。

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1～7 10・12	実務研修	1人	患者宅	適宜		指導医・患者・ 家族
2	8・9	実務研修	1人	外来		模造紙	指導医
3	2・3・ 4・6	カンファレン ス	1人	患者宅	30分		指導医・ケアマネ ージャー・MSW

4	1～9	実務研修	1人	診療所	適時		指導医・看護師・患者
5	11	実務研修	1人	診療所・ 講堂	適時		保健師・住民
6	9・10	講義	1人	カンファ室	60分	PC・プリント	指導医
7	12	シミュレーション	1人	カンファ室	60分		指導医

週間スケジュール

訪問看護ステーション

	月	火	水	木	金
午前	訪問診療	特養往診	病棟回診	医療相談室	病棟回診
午後	訪問看護	地域保健講話	訪問看護	病診連携室	病棟回診
夕刻	17:30～ CPC/ER/ 内科会	17:00～ カンファ レンス			17:10～ 医局会 (第1週のみ)

【研修評価】

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	観察記録	指導医	適宜
2	態度	形成的	観察記録	指導医・看護師	適宜
3	問題解決	形成的	観察記録	指導医・ケアマネ	適宜
4	問題解決	形成的	実地試験	指導医	適宜
5	解釈	形成的	実地試験	指導医	適宜
6	態度	形成的	観察記録	指導医・ケアマネ	適宜
7	問題解決	形成的	観察記録	指導医・照会先医師	適宜
8	技能	形成的	観察記録	指導医	適宜
9	技能	形成的	実地試験	指導医	適宜
10	想起	形成的	口頭試験	指導医	方略6終了時
11	技能	形成的	実地試験	住民	方略5終了時
12	技能	形成的	観察記録	指導医	方略7中

泌尿器科

【研修目標】

一般目標 GIO

泌尿器科に受診する一般的な疾患（尿路結石、排尿障害、血尿、尿路感染症）の診断と治療、管理の仕方を知るために、それぞれの病態を理解し、診察方法、検査のすすめ方を習得する。がん患者等に対してアドバンス・ケア・プランニングを踏まえた意思決定支援の場に参加する。

行動目標 SBOs

- 1) 泌尿器科領域における問診、身体所見がとれる。
- 2) 検尿結果を理解し、判断できる。
- 3) 超音波検査を施行し、異常の有無を判断できる。
- 4) レントゲン（KUB, IVP, CT, MRI, RI）検査を読影できる。
- 5) 排尿障害の病態を理解できる。
- 6) 泌尿器科的検査（膀胱鏡・逆行性腎盂造影・尿流量検査・ウロダイナミクス検査・逆行性尿道造影）の結果を理解できる。

【研修方略】

研修期間

1年次外科系選択。2年次2週間。

研修内容

外来業務 診察の見学、エコーの実施、泌尿器科的検査の見学と実施

病棟業務 指導医のもとで回診と処置を実施し、点滴、処方、検査オーダーを実施する

手術業務 腰麻手術の見学、脊椎麻酔の実施、全麻手術の第二助手、閉創の実施。

カンファランス 外来カンファランスと病棟カンファランスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う。抄読会ローテート中に1回発表する

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟 外来	手術 病棟 外来	手術 病棟 外来	手術 病棟 外来	手術 病棟 外来
午後	手術 検査	検査 ESWL	手術 検査	手術 検査 ESWL	手術 検査
夕刻		外来カンファ 病棟カンファ 抄読会			

作成必須レポート

- 1) 腎盂腎炎
- 2) 尿路結石

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識・技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
2	知識	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
3	知識・技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
4	知識	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
5	知識	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
6	知識	形成的	見学と口頭 試験	上級医・指導医	ローテーション中

緩和ケア内科

【研修目標】

一般目標 GIO

どの領域に属そうとも、望まれるホスピス・緩和ケアを提供できるように、必要な知識、技能、態度を習得し、それに基づきホスピス・緩和ケアを実践し、啓発できる。

行動目標 SBOs

- 1) ホスピス・緩和ケアメンバーの一員として、他の医療者ととともにチームを組んで、医師としての働きを十分に行うことができる。
- 2) 患者、家族、他のチームメンバーとのコミュニケーションを良好に進めることができる。
- 3) 苦痛を全人的な苦痛としてとらえ、身体的側面のみならず、心理面、社会面、スピリチュアルな面から症状緩和を行うことができる。
- 4) 家族のケア、死別による悲嘆反応などの重要性を認識し、適切な援助を行うことができる。
- 5) 医療者自身(自分自身)のケアに対して、十分に配慮することができる。
- 6) 倫理的、行政、法的問題を理解し、適切に対応することができる。

【研修方略】

研修期間

2年次2日間必須、2年次選択

研修内容

- 1) 病棟、緩和ケア外来など実際の場において、緩和ケアに携わる。
- 2) 種々の勉強会、学会、研究会に参加する。さらには発表する。
- 3) 緩和ケアカンファレンス（週5日、月～金曜日 14：00～）：
緩和ケアの実践において問題点のある入院患者について、チームメンバーで検討する。
- 4) デスカンファレンス（月1回 木曜日 14：30～）：
看取り後に問題点が残った死亡患者を振り返り、今後のケアについてチームメンバーで検討する。

週間スケジュール

曜日	午前	午後
月	AM9:15～9:45 病棟申し送り 病棟診察（新規入院者診察・面談、回診など） 入院相談外来予約診察（臨時含む）	病棟診察・カンファレンスなど
火	AM9:15～9:45 病棟申し送り 病棟診察（新規入院者診察・面談、回診など） 入院相談外来予約診察（臨時含む）	病棟診察・カンファレンスなど
水	AM9:15～9:45 病棟申し送り 病棟診察（新規入院者診察・面談、回診など） 入院相談外来予約診察・PCT 回診	病棟診察・カンファレンスなど (PM5:00～PCT カンファレンス)
木	AM9:15～9:45 病棟申し送り 病棟診察（新規入院者診察・面談、回診など） 臨床心理士ラウンド 入院相談外来予約診察（臨時含む）	病棟診察・カンファレンスなど
金	AM9:15～9:45 病棟申し送り 病棟診察（新規入院者診察・面談、回診など） 臨床心理士ラウンド 症状緩和コンサルテーション外来予約診察 入院相談外来予約診察（臨時）	病棟診察・カンファレンスなど 研修レポート提出

【研修評価】

日本ホスピス・緩和ケア協会による研修プログラムを参考し、自らの成長を確認する。適宜、上司による面接を実施し、その評価もふまえて目標の見直しなどを行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	態度	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
2)	態度	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
3)	知識・技術	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
4)	知識・技術	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
5)	知識・態度	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
6)	知識・態度	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時

地域連携

【研修目標】

一般目標 GIO :

地域連携（入退院支援・医療福祉相談・地域医療連携）の概念を理解し、地域医療、在宅医療、医療・保健・福祉・介護の分野も含めた種々の組織や施設と連携するための基礎を身につける。

行動目標 SBOs :

- 1) 地域における各種病院・施設の特性と役割について理解し連携することができる。
- 2) 身体・心理・社会的側面から、患者、家族のニーズを把握することができる。
- 3) チーム医療を意識し、他の医師やスタッフと個々の患者に関して意見交換並びに連携が適切にできる。
- 4) 医療保険制度、介護保険制度を始めとする各種社会保障制度に触れ、医師の役割および医療と介護・福祉との連携の重要性を理解し実践できる。

【研修方略】

研修期間 : 2年次3日間必須及び2年次選択

研修内容 :

①入退院支援

- ・入退院支援の流れ【座学】
- ・退院支援カンファレンス【座学・同行】
- ・地域連携パス、退院支援【座学・面接同席】
- ・後方病院、施設の特徴【座学】
- ・在宅支援【座学・面接同席】
- ・社会資源（介護保険/障害者サービス/市町村サービス/地域性）【座学】
- ・偕行会リハビリ病院見学【先方での見学・座学・実習】

②医療福祉相談

- ・倫理、権利擁護、身寄りのない患者への支援【座学・同行】
- ・虐待対応【座学】
- ・社会保障制度（身体障害者、難病など）【座学・面接同席】
- ・貧困問題【座学・面接同席】
- ・ボランティア、患者会【座学】
- ・がん相談【面接同席】

③地域医療連携

- ・紹介予約【見学】
- ・他院予約（診察・検査）【見学】
- ・当日受診（診療科外来・救急外来）【見学】
- ・情報照会について【見学または説明】
- ・セカンドオピニオン【見学または説明】
- ・がん地域連携パス患者の対応【見学または説明】
- ・かかりつけ相談【見学または説明】
- ・転入・転院【見学または説明】
- ・返書管理について【説明】
- ・渉外活動について【説明】

週間スケジュール：

曜日	午前	午後
月	(2年次選択の場合) AM8:30～8:40 全体ミーティング AM 地域医療連携：見学、患者への説明に同席 PM 入退院支援、医療福祉相談：資料を用いての座学、面接への同席 退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスへの同行	
火	(2年次選択の場合) AM8:30～8:40 全体ミーティング 全日入退院支援、医療福祉相談：資料を用いての座学、面接への同席 退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスへの同行	
水	AM8:30～8:40 全体ミーティング AM 地域医療連携：見学、患者への説明に同席 PM 入退院支援、医療福祉相談：資料を用いての座学、面接への同席 退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスへの同行	
木	AM8:30～8:40 全体ミーティング 全日入退院支援、医療福祉相談：資料を用いての座学、面接への同席 退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスへの同行	

金	AM8:30~8:40 全体ミーティング AM 入退院支援、医療福祉相談：資料を用いての座学、面接への同席 退院支援カンファレンス、退院前カンファレンスへの同行 PM 回復期リハビリテーション病棟（他院）での見学・実習
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【研修評価】

適宜、指導者による面接を実施し、その評価もふまえて目標の見直しなどを行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	知識・態度	形成的	観察記録	指導者	ローテーション中随時
2)	知識・態度	形成的	観察記録	指導者	ローテーション中随時
3)	知識・技術	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時
4)	知識・技術	形成的	観察記録	指導医	ローテーション中随時

精神科研修方略・評価

【研修目標】

一般目標 GIO :

安心と信頼の医療を提供し、患者の人権を尊重し社会のニーズに答えられる医師になるために、精神医療に必要な態度・技能・知識を習得するとともに、標準的な精神科症例を的確に診断し、迅速かつ適切に対応できる臨床能力の研鑽を積む。

行動目標 SBOS :

1. 標準的診断基準（DSM-V）に則った精神医学的診断法を習得する。
2. 標準的な疾患（統合失調症、双極性障害、大うつ病）において、Evidence-based な標準的薬物療法を習得する。
3. 患者とより良い関係を築くための支持的精神療法が施行できる。
4. 精神医学的診断・治療・ケアについての適切な意見を述べることができる。
5. 精神保健福祉法に基づく入院形態（任意入院、医療保護入院、措置入院）および行動制限（隔離、身体拘束）について、法令を理解し法令を遵守した対応ができる。
6. 精神科救急対応として、精神運動性興奮状態や自殺の危険性が高い患者への対応能力を修得する。
7. 患者および患者家族のニーズを身体心理・社会的側面から把握し、相手の気持ちを理解しつつ分かりやすく説明できる。

【研修方略（LS）】

研修期間 : 2 年次 4 週間

1. 4 週間を稲沢厚生病院精神神経科または北津島病院にて研修を行う。
2. 研修期間中のうち 2 日間は、七宝病院にて研修を行う。

研修内容 :

北津島病院

1. 入院患者を**担当医**として 2～3 例担当する。
2. 外来初診患者の予診を行い、指導医の初診に陪席する。
3. 精神科救急対応について、指導医と共に診察する。
4. 精神保健福祉法に基づく、任意入院、医療保護入院、行動制限についての書類作成を見学する。
5. 代表的な心理検査について、実際に体験し、臨床心理士指導のもと解釈について学ぶ。
6. デイケアにスタッフとして参加し、維持期患者の診察時以外の様子を見ることで、患者の心理・社会的背景について確認し配慮できるようになる。

7. 作業療法に参加、見学し、精神科リハビリについて学ぶ。
8. 機会があれば訪問看護に同行し、慢性期精神科患者の自宅生活状況を見学し、適切な指導方法について学ぶ。

稲沢厚生病院

1. 病棟、救急外来での実務研修(On-the-Job Training:OJT)を行なう。
2. 指導医・主治医の指導の下、患者の診察や治療計画に参加する。
3. 各種検査や手術の見学・介助を行ない、手技の理解や結果の解釈を行なう。
4. 各種（コンサルテーション・リエゾン精神医学を含む）のカンファレンスに参加する。

週間スケジュール 北津島病院

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
	心理検査	訪問看護	作業療法	デイケア	デイケア

週間スケジュール 稲沢厚生病院

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
	精神科 デイケア	リエゾンチーム 活動	精神科 デイケア	訪問看護	精神科 デイケア

作成必須レポート：

1. 興奮・せん妄
2. 気分障害
3. 統合失調症
4. 抑うつ
5. 認知症（七宝病院にて作成）
6. 依存症

【研修評価】

項目	評価者	時期	評価方法
担当入院患者について	自己、指導医	研修終了時	自己記録
			レポート
予診をとった初診患者について	自己、指導医	その都度	ディスカッション
心理検査の体験習得	自己、臨床心理士	その都度	自己記録 ディスカッション
デイケアの体験	自己、デイケア看護師	研修終了時	自己記録
精神科作業療法の体験	自己、作業療法士	研修終了時	自己記録
訪問看護の見学	自己、P S W	研修終了時	ディスカッション

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識	形成的	観察記録	指導医	初診外来陪席時
2	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
3	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
4	技能	形成的	観察記録	指導医	回診時
5	技能	形成的	観察記録	指導医	回診時
6	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
7	技能、態度	形成的	観察記録	指導医・看護師・ コメディカル	ローテ中随時

協力型臨床研修病院

JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院

北津島病院

七宝病院

精神科（七宝病院）

【研修目標】

一般目標（GIO）

認知症にかかわる臨床研修を外来・病棟で行う。鑑別診断、周辺症状や身体合併症等に対する対応、地域連携などの認知症医療を総合的に学び、基本的な知識を身につける。

行動目標（SBOs）

- 1) 高齢者のこころと身体に関する理解と知識の習得ができる
- 2) 老年期疾病及び認知症の病態の理解と対応ができる
- 3) 認知症に対する評価方法（認知症と区別すべき病態）の理解と知識の習得ができる
- 4) 認知症の診断法の理解と習得ができる
- 5) 認知症のリハビリテーションに関する理解ができる
- 6) 高齢者認知症における薬物療法（薬物動態・副作用）の理解ができる
- 7) 一般的身体所見および神経学的所見をとることができる
- 8) 認知症の施設・在宅医療に対する理解ができる
- 9) 認知症高齢者をとりまく社会環境に関する知識の理解と習得ができる

【研修方略（LS）】

研修期間

2年次2日間

研修内容

- 1) 病棟、救急外来での実務研修（On-the-Job Training:OJT）を行なう
- 2) 指導医・主治医の指導の下、患者の診察や治療計画に参加する
- 3) 各種検査や手術の見学・介助を行ない、手技の理解や結果の解釈を行なう
- 4) 各種のカンファレンスに参加する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
	精神科 デイケア		精神科 デイケア	訪問看護	精神科 デイケア

作成必須レポート

- 1) 認知症（七宝病院にて作成）
- 2) 依存症

【研修評価（Ev）】

- 1) 自己評価：精神科研修修了時に評価表による評価
- 2) 指導医による評価：各科研修修了時に評価表による評価

地域研修

【研修目標】

一般目標 GIO

地域住民の医療に対するニーズを立脚した診療を行うために、地域での医療・福祉・介護の資源を理解し、地域住民の生活背景を思い遣る気持ちを持ち、多職種のリーダーとして行動する。

行動目標 SBOs

- 1) 頻度の高い慢性疾患患者を外来管理ができる。(解釈)
- 2) 在宅患者・家族の心情に共感する態度を示す(態度)
- 3) 患者の社会的背景を配慮する。(問題解決)
- 4) 福祉・介護職へ適切に指示ができる。(問題解決)
- 5) 頻度の高い疾患の初期診療とトリアージができる。(解釈)
- 6) 患者・家族の入院前、入院中、退院後の具体的な生活支援について配慮する。(態度)
- 7) 他科、他院へ適切なタイミングで紹介できる。(問題解決)
- 8) 在宅生活の為に並存する疾患と社会的背景を網羅した適切な診療情報提供書を作成できる。
(技能)
- 9) 適切な社会的支援についての書類(身体障害者・特定疾患・介護保険 等)を作成する。(技能)
- 10) 地域の医療、保健、福祉資源役割を述べる。(想起)
- 11) 地域で保健、予防活動を主宰できる。(技能)
- 12) 死亡診断・宣告・死亡診断書作成を適切に行う。(技能)

【研修方略】

研修期間

2年次 4週間

研修内容

- 1) 1週間を篠島内に滞在宿泊し、知多厚生病院篠島診療所にて診療を行う。
住民に対して自身でテーマを決定し、講演を通じ保健活動を行う。
- 2) 1週間を地域で家庭医の役割を担う「小笠原クリニック」又は「名駅ファミリアクリニック」にて診療所での外来診療を行う。
- 3) 1.8週間を地域で家庭医の役割を担う「加藤胃腸科内科とびしまこどもクリニック」にて外来診療と併設の介護老人保健施設 又は「のどか在宅クリニック」、「山本医院」のいずれかにて診療所での外来診療及び在宅患者の診療、往診を行う。
- 4) 0.2週間を地域で家庭医の役割を担う前田ホームクリニックにて診療所での外来診療及び

在宅患者の診療、往診を行う。

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	1～7 10・12	実務研修	1人	患者宅	適宜		指導医・患者・家族
2	8・9	実務研修	1人	外来		模造紙	指導医
3	2・3・ 4・6	カンファレンス	1人	患者宅	30分		指導医・ケアマネージャー, MSW
4	1～9	実務研修	1人	診療所	適時		指導医・看護師・患者
5	11	実務研修	1人	診療所・講堂	適時		保健師・住民
6	9・10	講義	1人	カンファ室	60分	PC・プリント	指導医
7	12	シミュレーション	1人	カンファ室	60分		指導医

週間スケジュール

篠島診療所

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	外来診療	訪問診療	外来診療	保健講話	

小笠原クリニック

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	外来診療	外来診療	外来診療	保健活動	外来診療

加藤胃腸科内科とびしまこどもクリニック

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	施設診療	施設診療	施設診療	施設診療	施設診療
	月	火	水	木	金

午前	外来診療	外来診療	外来診療		
午後	施設診療	施設診療	施設診療		

※初日月曜日の午前は施設案内

のどか在宅クリニック

	月	火	水	木	金
午前	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療
午後	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療
	月	火	水	木	金
午前	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	
午後	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	

山本医院

	月	火	水	木	金
午前	訪問診療	訪問診療	訪問診療	外来診療	訪問診療
午後	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療
	月	火	水	木	金
午前	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	
午後	訪問診療	訪問診療	訪問診療	訪問診療	

前田ホームクリニック

	月	火	水	木	金
午前				外来診療	外来診療
午後				訪問診療	訪問診療

名駅ファミリアクリニック

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	外来診療	小児予防接種・ 乳児検診 外来診療	外来診療		小児予防接種・ 乳児検診 外来診療

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	観察記録	指導医	適宜
2	態度	形成的	観察記録	指導医・看護師	適宜
3	問題解決	形成的	観察記録	指導医・ケアマネ	適宜
4	問題解決	形成的	実地試験	指導医	適宜
5	解釈	形成的	実地試験	指導医	適宜
6	態度	形成的	観察記録	指導医・ケアマネ	適宜
7	問題解決	形成的	観察記録	指導医・照会先医師	適宜
8	技能	形成的	観察記録	指導医	適宜
9	技能	形成的	実地試験	指導医	適宜
10	想起	形成的	口頭試験	指導医	方略6終了時
11	技能	形成的	実地試験	住民	方略5終了時
12	技能	形成的	観察記録	指導医	方略7中
13	技能	総括的	OSCE	指導医	方略7終了時

協力施設

JA 愛知厚生連 知多厚生病院 篠島診療所
 小笠原クリニック
 加藤胃腸科内科とびしまこどもクリニック
 前田ホームクリニック
 名駅ファミリアクリニック
 のどか在宅クリニック
 山本医院

一般外来研修

2021年9月改訂

【研修目標】

一般目標 GIO

将来、専門分野によらず一般外来診療を適切に行うために、高頻度の主訴・日常的な疾患についての対応（初期評価・慢性期管理・専門科への紹介を含む）能力及び外来診療における基本的な考え方・診療態度を習得する。

行動目標 SBOs

- 1) 医療面接を行い、正確な病歴や解釈モデルを聴取できる。(知識・技能)
- 2) 礼節や共感的態度をもち患者・家族と適切なコミュニケーションがとれる。(技能・態度)
- 3) 目的をもった身体診察が適切に行える。(知識・技能)
- 4) スクリーニング検査を適切におこない、結果を解釈できる。(知識)
- 5) 発熱などの一般的な症状へのアプローチと臨床推論の考え方を理解する。(知識)
- 6) 臨床状況に応じて上級医・専門医へ適切なコンサルテーションができる。(技能・態度)
- 7) 外来診療の特性（時間配分・時間軸を用いた判断等）を理解し診療できる。(知識・技能)
- 8) 救急診療や病棟診療では対象となりにくい慢性疾患の基本的対応ができる。(知識・技能)
- 9) 患者・家族の心理に配慮した病状説明・療養相談が行える。(技能・態度)
- 10) 患者・家族に対して治療・検査における「説明と同意」を行える。(知識・技能)

【研修方略】

研修期間および方略

下記 1)2) の合計 4 週間

- 1) 小児科ローテート研修中（4 週間ローテートのうちの計 1 週間）
 - 4 週間ローテートのうち計 1 週間、初診患者の診察・1 ヶ月健診・予防接種を指導医のもと行う。
- 2) 地域医療研修（4 週間のうち最低 3 週間）
 - ・篠島診療所（1 週間）
 - ・加藤胃腸科内科とびしまこどもクリニック及び前田ホームクリニック（2 週間）
 - ・名駅ファミリアクリニック又は小笠原クリニック（いずれかで 1 週間）

外来診療を指導医とともに担当し、指導及びフィードバックを受ける。

篠島診療所では現地の担当医のほか本院の指導医が 2 日間同行し、

診療課題（疾患・病態）に準じた診療指導及びフィードバックをおこなう。

※本院の成人外来受診は原則として「紹介患者のみ」となっており、初期研修医の

「一般外来研修」の対象とならないため、上記の連携施設で一般外来研修をおこなう。

【研修評価】

日々の外来診療において指導医から継続的にフィードバック及び助言を受ける。

研修終了時に評価票を用いて形成的評価をおこなう。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
2	技能・態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
3	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	診察同席時
4	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
5	知識	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
6	技能・態度	形成的	観察記録	指導医	ローテ中随時
7	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
8	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
9	技能・態度	形成的	観察記録	指導医・コメディカル	ローテ中随時
10	知識・技能	形成的	観察記録	指導医	診察同席時

選択ローテート各科研修方略・評価

ICU 選択研修

【研修目標】

はじめに

ICU 研修は必須ではありません。ただし、当院 ICU は General ICU ですので、ICU 研修で学んだ全身管理の知識と技術は、将来の選択科に関わらず役に立つと思います。症例の偏りを無くし、段階的に次のステップへ進むので研修を選択するならば最低 6 週間としています。

一般目標 GIO

重症病態下にある患者に対して、緊急時にライフサポートが適切に施行でき、そして時を待たずして集中治療が必要であると判断することができるようになるために、重要臓器不全の状態とそれに対する生体危機管理医学としての救急・集中治療の意義を十分に理解し、重要臓器不全に対する知識と判断力を習得する。

行動目標 SBOSs :

- 1) 緊急時のライフサポートとして ACLS を習得する。(技能)
- 2) クローズドシステムがオープンシステムより優れている理由を述べ、重症患者管理病棟と ICU の相違について説明できる。(想起)
- 3) 入室適応と退室基準についての的確に判断できる。(解釈)
- 4) 気管挿管の適応、抜管のタイミングを判断でき、安全に施行できる。(技能)
- 5) 各種カテーテル挿入、胸腔ドレーン留置、気管切開などの適応について判断できる。(想起)
- 6) 人工呼吸管理の各種モードを把握し、病態に応じた人工呼吸管理が実践できる。(問題解決)
- 7) 病態に応じた循環管理が適切に実践できる。(技能)
- 8) 院内救急に対応し、適切なライフサポートが行える。(技能)
- 9) 救急・集中治療に用いる各種薬剤の薬理作用（副作用も含む）について説明でき、投与ルーットの管理、投与量（速度）、も含めて使いこなすことができる。(技能)
- 10) ICU が医師のみならず看護師・理学療法士・臨床工学技師の協力によって運営されていることを理解する。(態度)

【研修方略】

研修期間

2 年次選択、6 週間以上推奨

研修内容

- 1) 毎朝の ICU カンファレンスに先立ち、患者の状態をあらかじめ把握し、カンファレンスに臨むことにより、より深い理解と集中治療のストラテジーを学ぶ。
- 2) 病態に応じた治療法を実践するための指示書（治療計画書）を、指導医の添削を受けながら完成する。
- 3) 救急・集中治療を要する重症患者に対する処置・手技を救急外来、ICU、手術室にて指導医のもとに実習する。
- 4) 重要臓器不全に対する各種人工補助療法を含む高度な集中治療を指導医のもと、実践する。
- 5) 上級医とともに院内救急・院外救急に対応し、現場にて適切な処置を施し、必要ならば ICU に収容する。
- 6) ベッドサイドまたはカンファレンスルームでの講義、以下の内容にて行う
 - ① ICU システムについて
 - ② 入室・対室基準
 - ③ ルート管理の基本
 - ④ 呼吸(病態と管理)
 - ⑤ 循環(病態と管理)
 - ⑥ 代謝(病態と管理)
 - ⑦ 感染・SIRS(病態と管理)
 - ⑧ 栄養管理
 - ⑨ 輸液・電解質
 - ⑩ 腎不全
 - ⑪ 肝不全
 - ⑫ 中枢神経・脳保護・低脳温療法
 - ⑬ 多臓器不全
 - ⑭ 薬物中毒
 - ⑮ モニタリング
 - ⑯ 急性血液浄化法

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
早朝			Journal club		
朝 8:30～ 9:10	ICU カンファ レンス	ICU カンファ レンス	ICU カンファレ ンス	ICU カンファ レンス	ICU カンファ レンス
午前	ドクターカー 一同乗	ICU/救急重 症管理	ICU/救急重症 管理	ICU/救急重 症管理	ICU/救急重 症管理
午後	ICU/救急重 症管理		ICU/救急重症 管理		
夕刻					
夜間	ICU 当直				

ICU 当直は月 2 回程度（原則翌日午後からは休み）

病院の ER 当番があれば、それを優先する。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	実技記録	上級医	オリエンテーション 中
2	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
3	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中
4	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
5	想起	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
6	問題解決	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
7	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
8	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	研修期間すべて
9	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中
10	態度	形成的	口頭試験	指導医	ローテート終了時

形成外科

【研修目標】

一般目標 GIO :

創傷に悩む人の気持ちを理解しつつ、創傷治療における最も基本的な手技を修得する。

行動目標 SBOs :

- 1) 創傷治癒について説明できる。
- 2) 熱傷の病態が説明できる。
- 3) 褥瘡の病態が説明できる。
- 4) 熱傷の重症度を判定できる。
- 5) 褥瘡の深達度を判定できる。
- 6) 急性および慢性創傷患者における栄養状態の評価ができる。
- 7) 創傷治療における栄養管理を計画できる。
- 8) 創傷治療における適切な外用剤・被覆材を選択できる。
- 9) 創傷治療における疼痛緩和を行うことができる。
- 10) 効率的な医療資源の活用に配慮できる。
- 11) 率先して処置に参加できる。
- 12) 他職種との連携に配慮できる。
- 13) 新鮮熱傷の局所管理ができる。
- 14) 褥瘡処置（洗浄・デブリードマン・ドレッシング）ができる。
- 15) 褥瘡の予防法を患者・家族・メディカルスタッフに指導できる。

【研修方略】

研修期間 : 1 年次外科系選択。2 年次選択。

研修内容 : 指導医と共に自らが創傷治療を実施する。

週間スケジュール : 形成外科カンファレンス 毎日 午前 8 : 3 0 ~

CLI (重症虚血肢)カンファレンス	不定期
病理カンファレンス	不定期
頭頸部カンファレンス	不定期

	月	火	水	木	金
午前	手術/病棟	手術/病棟	手術/病棟	手術/病棟	手術/病棟
午後	部長外来	外来	褥瘡回診	部長外来	病棟

【研修評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
2	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
3	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
4	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
5	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
6	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
7	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
8	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
9	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
10	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
11	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
12	知識	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
13	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
14	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時
15	技能	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス時

脳神経外科

【研修目標】

一般目標 GIO

将来専攻する専門科に関わらず、救急対応や担当患者対応ですべての医師に必要とされる脳神経外科領域のプライマリケアができるようになるために、神経疾患、特にその救急対応と神経学的後遺症について理解し（知識領域）、病態を適切に吟味しその緊急性を把握するとともに後遺症のある状態での生活について思いを致すよう心掛け（態度領域）、脳神経外科領域の救急・初期治療および神経学的後遺症を見越した長期治療計画の実際を習得する（技能領域）。

行動目標 SBOs

- 1) 脳神経疾患（脳血管障害・頭部外傷・てんかん発作など緊急性の高いものを中心とします）の初期対応及びその後の治療につき習得する。
- 2) 神経系の画像診断に慣れ、的確な読影ができる。
- 3) 後遺症を残す病態の治療方針の決定や、治療後の社会資源の活用（ケースワーカーとの連携）など、全人的治療について理解する。
- 4) 神経学的な検査（神経学的所見のとり方、腰椎穿刺、脳血管撮影など）、外科的な基本手技（挿管、中止静脈の確保、気管切開など）ができる。

【研修方略】

- 1) 病棟回診に参加し、治療の実際を実習する。処置が必要な場合、上級医の指導のもと積極的に実技を行なう。
- 2) 手術に助手として参加し、脳神経外科手術の実際について研修する。
- 3) 救急患者の初期対応を上級医とともに行い、治療方針・治療内容につき実習する。
- 4) CT・MRIなどの画像診断を上級医とともに行い、診断および解釈につき実習する。
- 5) リハビリテーションの計画について療法士と意見交換を行ない、その実際を経験する。
- 6) 訪問診療に上級医とともに参加し、障害を残した患者の normalization について見学・実習する。

研修期間

1 年次外科系選択、2 年次選択

研修内容

- 1) 曜日ごとに病棟担当医が決まっています。その日の病棟担当医の指示に従い、病棟での実習を中心に研修して頂きます。処置が必要な場合、積極的に参加して頂きたいと思えます。当日に撮影された CT・MRI などの画像診断も行います。
- 2) 救急患者の初期対応にご協力頂き、その中で脳神経疾患の救急対応につき随時実習して頂き

ます。

- 3) 病棟実習・救急外来実習を通し、脳神経外科の治療で使用する薬剤（抗凝固剤・抗血小板剤・降圧剤など）の選択、使用法について学習して頂きます。
- 4) カンファレンスに参加し、長期的な意味での治療計画について学んで頂きます。何か意見がございましたら遠慮なく積極的にご発言をお願いします。
- 5) 訪問看護を通し、地域社会との連携・社会資源の活用などを実感して頂きます。
- 6) 手術には原則として参加して頂きます。毎週木曜日・金曜日が手術日です。必要に応じ、随時緊急手術が入りますが、できる限り助手として参加して下さい。手技が比較的簡単で危険性の低いと考えられる手術は、術者として執刀して頂くこともあります。
- 7) 各種検査についても、指導医の十分な指導のもとで、実際に経験して頂けるようできるだけ配慮します。
- 8) 木曜日の午前中には脳神経血管内手術（neuro-intervention）が行われています。興味のある方の参加・見学は大歓迎です。
- 9) 研修中に入院された患者様で、比較的軽症のものについては担当医として治療に参加して頂きます。治療方針の検討・退院後の方針などについて積極的な意見交換をお待ちしています。
- 10) その他、上記研修内容を達成する為、ご要望があればできるだけ対応させていただきますのでご相談ください。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診 血管内手術	病棟回診
午後	検査	検査	訪問看護	手術	手術
夕方	症例検討会				

月～金：脳ドック診察あり。救急は随時。

作成必須レポート

脳血管障害患者最低1人・外傷患者最低1人の計2部を作成する。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	知能・技能	形成的	技能試験 観察記録	指導医	ローテ時随時
2)	知能・技能	形成的	口頭試験 観察記録	指導医	ローテ時随時 カンファ時
3)	態度・技能	形成的	口頭試験	指導医	ローテ時随時
4)	技能	形成的	技能試験	指導医	ローテ時随時

心臓血管外科

【研修目標】

一般目標 GIO

循環器疾患の理解を心臓血管外科領域の症例を経験することにより深める。

周術期の患者管理を経験することにより、麻酔学、集中治療学が扱う呼吸循環管理の理解を深める。

(科ごとの到達目標、行動目標については循環器科に準じる)

【研修方略】

研修期間

2年次選択、3～6 週推奨 (循環器科を含めた合同研修が原則である)

研修内容

- 1) 循環器疾患の初期対応、診断、治療のプロセスを循環器内科、心臓血管外科合同の環境で習得する。
- 2) 手術症例の術前評価を行いプレゼンテーション可能なレベルまで高める。
- 3) 治療的医療行為 (心臓カテーテル、PCI、心臓血管外科手術) に助手として参加し基本的な手技の習得を目指す。
- 4) 心臓血管外科手術症例の周術期管理の習得に努める。
(ICU での術当日夜間までの術後管理と ICU カンファレンスへの参加、退院までのフォローアップが必須である。)
- 5) 全身麻酔管理、体外循環装置のしくみと病態生理を理解し、手術の第一、第二助手を経験する。
- 6) 感染対策について基本的な手技の習得を行う。
- 7) 緊急手術には原則すべて助手として参加し、肉体的な労働の喜びを体験する。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
7時30分	Morning Report				Morning Report
8時	循環器科との 合同カンファ レンス		8時30分 ICUカンファ レンス	循環器科との 合同カンファ レンス	8時30分 ICUカンファ レンス
午前	10時 部長回診	8時15分 回診 9時15分 手術	10時 部長回診	8時15分 回診 9時15分 手術	10時 回診
午後		手術		手術	
夕刻		術後管理		術後管理	

火曜日、木曜日は手術を優先し、水曜日、金曜日は心臓カテーテル検査を優先する。

上記以外の時間帯は循環器科及び心臓血管外科の担当患者回診に充てる。

循環器病棟内で行われる検査、治療行為には積極的に見学参加する。

【研修評価】

心臓血管外科手術症例を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出する。研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。手術例レポート作成を合格水準に達するまで指導する。

皮膚科

【研修目標】

一般目標 GIO :

皮膚の状態から、その病態の評価および適切な対処ができる。

行動目標 SBOs :

- 1) 皮膚科の common disease の病態と治療を説明できる。(想起)
- 2) 心理的背景に配慮する。(態度)
- 3) 臨床像、各データから皮膚感染症の診断ができる。(解釈)
- 4) Tzanck 試験が必要な皮疹が分かる。(解釈)
- 5) Tzanck 試験ができる。(技能)
- 6) 病変部位に応じたステロイド外用剤が選択できる。(解釈)
- 7) 全身疾患に伴う皮膚疾患を説明できる。(解釈)
- 8) 糸状菌検査ができる。(技能)
- 9) 皮膚生検ができる。(技能)
- 10) 薬剤による皮膚障害が説明できる。(解釈)
- 11) 簡単な皮膚腫瘍を切除できる。(技能)

【研修方略】

研修期間 : 1 年次外科系選択。2 年次選択。

研修内容 :

①小講義 SBOs 1)2)3)4)6)7)8)

→成書、標本（主に HE 染色）を用いて、正常皮膚について理解してもらう。

②外来研修 1)2)3)5)6)7)8)9)10)

→専門医、上級医について外来診察を行い、診断に必要な皮膚所見、検査方法、所見、治療方法を理解する。

③病棟研修 1)2)3)5)6)7)8)9)

→専門医、上級医と共に入院患者の担当医になり、皮膚疾患について知識を深めてもらう。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金	土
午前	外来 or 手術	外来	外来	外来	外来	
午後	手術 or 病棟	手術 or 病棟	手術 or 病棟 and カンファレンス	手術 or 病棟	手術 or 病棟 and カンファレンス	

空欄は基本的に上級医に付いて外来診療に携わる。

上記以外の時間帯は担当患者回診に充てる。

※適宜、病理検討会を病理医とともにこなう。

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション終了時
2	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医 看護師・同僚	ローテーション中
3	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション終了時
4	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	カンファレンス時
5	技能	形成的	観察記録 口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中 ローテーション終了時
6	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	カンファレンス時
7	解釈	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時
8	技能	形成的	観察記録 口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中 ローテーション終了時
9	技能	形成的	観察記録 口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中 ローテーション終了時
10	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション終了時
11	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中

眼科

【研修目標】

一般目標 GIO

救急外来ですべての医師に必要とされる眼科領域の初期救急医療に関する技術の習得ができるように、眼科臨床に必要な基礎的知識を理解し、チーム医療に心掛け、眼科治療技術を習得する。

行動目標 SBOs :

<屈折異常（近視、遠視、乱視）>

- 1) 屈折異常（近視、遠視、乱視）の検査、治療方法を説明できる。（想起）
- 2) 屈折検査、視力検査ができる。（技能）
- 3) 眼科医が処方する眼鏡や、装用の仕方の指導を説明できる。（想起）
- 4) 近視による視力障害、あるいは、近見、遠見両方の視力障害などの状況を正確に聴取できる。（技能）
- 5) コンタクトレンズの希望者に対し、専門医の診断、処方が必要であることを説明できる。（技能）
- 6) 屈折矯正レーザー手術の適応に関しては、専門医の診断が必要であることを指導できる。（技能）

<角結膜炎>

- 7) ウイルス性角結膜炎の疑いのある患者に感染の予防に十分な配慮する。（態度）
- 8) ウイルス性角結膜炎の疑いのある患者に周囲の感染者の有無など感染性に関する事項を聴取することができる。（技能）
- 9) アデノウイルス診断キット検査を適切に、自分で行うことができる。（技能）
- 10) ウイルス性角結膜炎の疑いのある患者に適切な対症療法を説明できる。（技能）
- 11) 感染性が強い場合、周囲への感染を予防するための注意を説明できる。（技能）
- 12) 感染性角結膜炎（ウイルス以外の原因）の疑いのある患者に適正な抗菌薬点眼を処方できる。（技能）
- 13) アレルギー性角結膜炎の疑いのある患者に適切に抗アレルギー薬点眼を処方できる。（技能）
- 14) 非感染性角結膜炎の原因を挙げることができる。（想起）

<白内障>

- 15) 白内障の初発症状を挙げるができる。（想起）
- 16) 白内障を併発する他の眼疾患・全身疾患の既往歴を聴取できる。（技能）
- 17) 細隙灯顕微鏡検査で白内障を診断できる。（解釈）
- 18) 視力障害の大まかな鑑別診断ができる。（解釈）

19) 顕微鏡下で白内障手術の助手ができる。(技能)

＜緑内障＞

20) 緑内障の初発症状について説明することができる。(想起)

21) 眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査ができる。(技能)

22) 眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査の検査結果を説明できる。(解釈)

23) 緑内障の診断・鑑別診断に必要な病歴を聴取できる。(技能)

24) 緑内障発作の診断・鑑別診断に必要な病歴を聴取することができる。(技能)

25) 緑内障発作寛解のために適切な薬物治療を行うことができる。(問題解決)

＜糖尿病、高血圧、動脈硬化による眼底変化＞

26) 糖尿病網膜症の初発症状、病期分類について説明できる。(想起)

27) 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査ができる。(技能)

28) 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査の検査結果を説明できる。(解釈)

29) 高血圧、動脈硬化による眼底変化の初発症状、病期分類について説明できる。(想起)

30) 全身疾患との関連、予後および治療法について十分に説明できる。(想起)

【研修方略】

研修期間

1 年次外科系選択、2 年次選択

研修内容

1) 外来、手術の助手、病棟回診を指導医とともに行う。

2) 眼科検査を指導医と視能訓練士とともに行う。

週間スケジュール例：

	月	火	水	木	金
早朝	回診	回診	回診	回診	回診
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	手術	検査	検査	手術	検査
夕刻	カンファレンス			カンファレンス	

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	口頭試験	指導医・視能訓練士	カンファレンス時
2	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
3	想起	形成的	口頭試験	指導医・視能訓練士	カンファレンス時
4	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
5	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
6	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
7	態度	形成的	観察記録	指導医・看護師	ローテート中
8	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
9	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
10	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
11	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
12	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
13	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
14	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
15	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
16	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
17	解釈	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
18	解釈	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
19	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
20	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
21	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
22	解釈	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
23	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
24	技能	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
25	問題解決	形成的	口頭試験	指導医	ローテート終了時
26	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
27	技能	形成的	観察記録	指導医・視能訓練士	ローテート中
28	解釈	形成的	観察記録	指導医	ローテート中
29	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時
30	想起	形成的	口頭試験	指導医	カンファレンス時

耳鼻いんこう科

【研修目標】

一般目標 GIO

救急外来や担当患者において、耳鼻いんこう科領域の初期対応が出来るようになるため耳鼻いんこう科領域の解剖と疾患を理解した上で診察・検査を行い診断する能力を身に付ける。

行動目標 SBOs

- 1) 耳鼻いんこう科領域の解剖・疾患が説明できる。(想起)
- 2) 耳鏡・鼻鏡・軟性 fiber を使い耳・鼻・咽頭・喉頭の所見がとれる。(技能)
- 3) 標準純音検査の結果から病態を推測する。(解釈)
- 4) 平衡機能検査を行い結果から病巣を推測する。(技能)
- 5) CT・MRI 等から病態を推測する。(技能)
- 6) 手術の適応、術式を理解し治療方針をたてる。(技能)
- 7) 手術には全て参加する。(態度)
- 8) 緊急手術は積極的に参加する。(態度)
- 9) 気管切開・扁桃摘出手術を経験 2 回目には完遂できなくとも執刀する。(態度)

【研修方略】

研修期間

1 年次外科系選択、2 年次選択

耳鼻いんこう科の診断・診察は「実際にどれだけ疾患を診たか。」が鍵です。

外来で、診察医と共に、興味ある疾患の所見をどんどんとってもらいます。

手術は基本的に全て参加してもらいます。時間外・緊急手術も可能な限り参加してもらいます。

* 当直明けは半日で終了です。

研修内容

基本的に午前中は外来、午後は検査・手術です。

3 診全ての診察室で経験すべき疾患を**指導医・上級医**と共に所見取りしてもらいます。その時に耳鏡・鼻鏡・軟性 fiber を体得してもらいます。

また、平衡機能検査・聴力検査・画像検査から病態を推察してもらいます。

手術適応となる疾患を外来で診察し、実際の手術にも参加してもらいます。

病棟の回診で術後の経過を診たり、めまい・急性炎症性疾患の経過を経験してもらいます。

癌患者の抗癌剤や Radiation 治療についても病態・経過を経験してもらいます。

ローテート終了時には、経験した疾患の治療方針が立てられるようになってもらいます。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	外来 (回診)	外来 (回診)	外来 (回診)	外来 (回診)	外来 (回診)
午後	検査 or 手術	検査 or 手術	検査 or 手術	検査 or 手術	検査 or 手術

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
2	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
3	解釈	形成的	口頭試験	上級医	ローテーション中
4	技能	形成的	口頭試験	上級医	ローテーション中
5	技能	形成的	口頭試験	上級医	ローテーション中
6	技能	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中
7	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
8	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中
9	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション終了時

放射線診療科

【研修目標】

一般目標 GIO

研修期間（2～4 週間）の点から、研修は画像診断研修を主体とし、検査ごとの読影診断ではなく、患者ごとの総合的な画像診断が行える知識・技能を修得する。

当科での研修を通じて、各種の画像の特質と読影時に注意しなければならない点をよく理解し、その過程でなるべく見落としが少なくなるような読影法を修得する。

IVR の助手として検査・治療に参加し、IVR の基本的知識、技能を習得する。

希望があれば放射線治療の研修も行う。

悪性腫瘍の治療に放射線治療の果たす役割を理解し、がん患者の診察、コミュニケーションのとり方を修得する。

行動目標 SBOs

<画像診断>

- 1) CT の正常像・異常像を識別する。(解釈)
- 2) CT で病態の診断、悪性腫瘍の場合は病期の診断を行う。(問題解決)
- 3) MRI の正常像・異常像を識別する。(解釈)
- 4) MRI で病態の診断、悪性腫瘍の場合は病期の診断を行う。(問題解決)
- 5) RI の正常像・異常像を識別する。(解釈)
- 6) RI で病態の診断、病期の診断を行う。(問題解決)
- 7) 総合的に画像診断を行う。(問題解決)
- 8) IVR の適応、技術を理解する。(技能・解釈)

<放射線治療>

- 9) がん患者に対して患者心理に配慮しつつ診察を行う。(態度)
- 10) 各々の癌についての病期分類を理解する。(解釈)
- 11) 病期診断のために必要な画像所見・理学所見を理解する。(解釈)
- 12) 身体所見を正しく取ることができる。(技能)
- 13) 患者・家族と良好な人間関係を確立できる。(態度)
- 14) コメディカルと協調して行動できる。(態度)
- 15) 指導医とともに治療計画を立案する。(問題解決)

【研修方略】

研修期間

2 年次選択 2～4 週間推奨

研修内容

研修基本事項に留意し、読影レポートの作成を行う。また放射線治療に参加する。

研修基本事項

1) 画像診断

- ① 各科からの読影依頼に対し、研修医がファーストネームで読影レポートを作成する。
読影の数を競うものではないので、各種の参考文献・テキストを参照し、十分に時間をかけて、自分なりに納得の行くレポートを作成することを心がける。
- ② 読影に際して、見落としがなるべく少なくなるような自分なりの方法論を確立する様に努力する。
- ③ 指導医と一緒に画像を見ながら議論をし、読影レポートのチェックを受けることにより、フィードバックを受ける。
診断困難例、希少例についてはチェックしておき、後日診断確定後にフィードバックをかける。
- ④ IVR に助手として参加し、IVR の適応、技術を理解する。

*研修終了後、研修医の作成したレポートは患者氏名を匿名化した上でファイルとして研修医に提供し個々に興味ある症例は follow up 可能にする。

2) 放射線治療

- ① 指導医による指導のもと治療計画に参加する。
- ② 治療効果の確認を行うための診察、画像診断を行う。

方略	SB0s	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
1	画像診断 1～7	実務研修 (レポート 作成)	1	読影室	適時	画像読影装置	指導医
2	画像診断 8	実務研修 IVR 助手	1	血管撮影室	火曜午後 2～3 時間	血管撮影装置	指導医
3	放射線治療 9～15	実務研修	1	放射線治療室	適時	放射線治療計 画装置	指導医 放射線技師 看護師

週間スケジュール：適宜、高精度放射線治療、CT ガイド下生検等に参加する

	月	火	水	木	金
8時00分				消化器 カンファレンス	
午前	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成
午後	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成	読影レポート 作成
夕刻	指導医による チェック	指導医による チェック	指導医による チェック	指導医による チェック	指導医による チェック

適宜、高精度放射線治療、CT ガイド下生検等に参加する

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	解釈	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
2	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
3	解釈	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
4	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
5	解釈	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
6	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
7	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中毎日夕刻
8	技能	形成的	実地試験	上級医・指導医	毎週木曜 IVR 検査時
9	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
10	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
11	解釈	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
12	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
13	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテーション中 適宜
14	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医 技師・看護師	ローテーション中 適宜
15	問題解決	形成的	実地試験	上級医・指導医	ローテーション中 適宜

病理診断科

【研修目標】

一般目標 GIO :

病理検査を有効に利用できる医師となるために、診断病理学の概要を理解し、各科との良好なコミュニケーションに心がけ、適切な病理検体の取扱い方を習得する。

行動目標 SBOs :

- 1) 組織診と細胞診の違いを説明できる。(想起)
- 2) 病理標本(組織診・細胞診)の作製手順を列記できる。(想起)
- 3) 各種特殊染色および免疫染色の目的を説明できる。(想起)
- 4) 病変の肉眼的所見を記述できる。(解釈)
- 5) 各臓器の正常組織像を識別できる。(解釈)
- 6) 基本的な病理学的所見を抽出できる。(解釈)
- 7) 確定診断のために必要な追加染色および確認すべき臨床情報を提示できる。(問題解決)
- 8) 病理診断に基づいて治療方針を立案できる。(問題解決)
- 9) 主治医に必要な臨床情報を照会する。(態度)
- 10) 各科との臨床病理検討会に積極的に参加する。(態度)
- 11) 手術検体の撮影、張り付け、ホルマリン固定が適切にできる。(技能)
- 12) 癌取扱い規約に準じた各臓器の切り出しができる。(技能)
- 13) 病理解剖の介助や記録ができる。(技能)

【研修方略】

研修期間 : 2 年次選択。

ローテート開始前に指導医と面談し、各々のニーズに対応した研修目標および研修期間を設定する。

研修内容 :

方略	SBOs	方法	場所	時間	媒体	指導者・協力者
①	1)-8)	小講義	カンファ室	各 30 分	PC	上級医・指導医
②	1)-3)	実務研修	病理検査室	適時	実物	検査技師・上級医・指導医
③	4), 11)-12)	実務研修	切出し室	適時	実物	上級医・指導医
④	3), 5)-9)	実務研修	病理診断室	適時	実物	上級医・指導医
⑤	4), 11)-13)	実務研修	病理解剖室	適時	実物	上級医・指導医・検査技師
⑥	7)-10)	カンファレンス	カンファ室	各 60 分	PC	上級医・指導医

①小講義形式にて診断病理学の基本的事項を学ぶ。

②検査技師および上級医・指導医の説明の下、病理標本作製の手順を理解し、包埋・薄切・染

色などを体験する。

- ③手術材料をもとに、検体の取扱い方、肉眼所見の取り方、切出し方法を学ぶ。
- ④病理標本をもとに、組織学的所見の取り方や診断に至るまでの思考過程を学ぶ。また、病理診断報告書の作成にも携わる。
- ⑤病理解剖に立ち会い、上級医・指導医の下で第一助手として剖検介助をしながら、解剖手技や肉眼所見の取り方を学ぶ。また、剖検録の記載をする。
- ⑥各臨床病理検討会に出席して、積極的に討論に参加する。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 乳腺カンファ 病理診断
午後	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断

- * 夜間当直明けは業務なしで帰宅とする。
- * 上記以外の時間帯は標本作製に充てる。
- * 不定期に術中迅速診断や病理解剖が行われる。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
2)	想起	形成的	口頭試験	検査技師・上級医・指導医	方略②終了時
3)	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
4)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
5)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
6)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
7)	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
8)	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
9)	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中 適宜
10)	態度	形成的	観察記録	技師長・上級医・指導医	方略⑥終了時
11)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート終了時
12)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中 適宜
13)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	方略⑤終了時

乳腺・内分泌外科

【研修目標】

一般目標 GIO

将来に専攻する専門科に関わらず、救急対応や担当患者対応ですべての医師に必要とされる外科領域のプライマリケアができるようになるために、手術前の評価・術中診断・術後の管理があることを理解し、患者の社会的背景・倫理的配慮に心掛け、外科治療の意義を習得する。

行動目標 SBOs

A 行動目標

1) 患者－医師関係

患者および患者家族と良好な関係を築くために

- ① 患者・家族の社会的側面を把握できる。
- ② 患者・家族・医師がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントとは何か、を理解できる。
- ③ 患者へのプライバシーの配慮ができる。

2) チーム医療

院内の幅広い職種のスタッフと協調する為に

- ① 上級医師との円滑なコミュニケーションがとれる。上級医師に対して適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- ② 多職種のメディカルスタッフと連携ができる。

3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行うために

- ① 臨床上的問題点(外科領域と他科の領域にわたることを含めて)を適切に把握し、当該患者への対応ができる。
- ② 研究や学会活動に関心を持つ。外科雑誌論文内容が把握できるようにする。
- ③ 複数の科に渡って診療が必要な場合があることを理解する。

4) 安全管理

安全な医療を行うために

- ① 外科手技を実施するにあたり、安全確認の考え方を理解し、遂行できる。
- ② 院内感染対策を理解し、実施できる。手術室における清潔操作について理解する。

5) 症例提示

チーム医療の実践と自己研鑽に不可欠な、症例提示と意見交換を行うために

- ① 症例提示と討論ができる。
- ② 院内カンファレンスや学術集会に参加する。

6) 医療の社会性

医療のもつ社会的側面を理解するために

- ① 保健医療法規・制度のなかで医療が行われていることを理解する。
- ② 医の倫理・生命観が手術適応や手術方針を決める上で関与していることを理解する。

B 経験目標

1) 医療面接

患者・患者家族との信頼関係を構築するために

- ① コミュニケーションスキルを身に付け、患者の病態を適切に把握できる。また、その記録ができる。
- ② 手術前・手術後のインフォームドコンセントの重要性を理解できる。

2) 基本的な所見のとり方

病態が把握できるようにするために

- ① 日本の癌取り扱い規約について理解する。がん患者の術前・術中・術後所見について評価ができ、その記録ができる。
- ② UICC TMN 分類について理解する。
- ③ 腹膜炎・腸閉塞の腹部所見について理解する。
- ④ 腹部・胸部外傷患者の所見について理解し、治療が同時進行で行われることを学ぶ。

3) 外科基本手技

プライマリーケアのできる医師としての基本手技を習得するために

- ① 圧迫止血法を実施できる。
- ② ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- ③ 局所麻酔法を実施できる。
- ④ 成人の腰椎麻酔法を実施できる(腰椎穿刺を行う)。
- ⑤ 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- ⑥ 皮膚縫合法・結紮を実施できる。
- ⑦ 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- ⑧ 気管挿管と全身麻酔の維持。

4) 外科治療への参加

外科治療の実際を理解するために

- ① 手術助手として参加し、手術の実際を理解する。
- ② 手術中および手術摘出材料から手術所見を把握することができる。
- ③ 手術の術前処置について理解する。
- ④ 術後の管理について理解する。
- ⑤ 術後合併症に対する処置について理解する。

【研修方略】

研修期間

2 年次選択

研修内容

- 1) 担当患者においては、術前・術後の IC に同席する。
- 2) 手術助手、麻酔助手を中心に外科割り当て表により研修する（研修医としての当直、ER 当番、予防接種、勉強会などは優先）。担当医として受け持った患者については術前診断・術中診断・術後経過について評価し、それを記載する。
- 3) 外科全身麻酔手術症例の麻酔手術前、後回診を行う。患者が抱えている随伴疾患について把握し、手術のリスクを評価し、チェック票に記載する。
- 4) 毎週金曜日 15 時半から行われる外科カンファレンスにおいて、担当手術患者の、術前プレゼンテーション、手術報告を行う。
- 5) 外科文献抄読会で 1 回発表する。
- 6) 手術室では、創処置、皮膚縫合、ルート確保、気道確保、など基本的な手技を習得する。また、クローズドドレッシングの実際を理解する。病棟では、術後の傷処置・ドレーンの管理について習得する。
- 7) 毎週木曜日朝 8 時から、消化器外科・内科・放射線科合同カンファレンスに参加する。
- 8) 毎週金曜日 15 時半からのカンファレンスの中で、外科文献抄読会および問題症例カンファレンスに参加する。
- 9) 毎月 1 回消化器がんボードに参加する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
7 時 30 分 8 時 00 分	Morning Report 病棟業務	病棟業務	Morning Report 病棟 業務	消化器内 科・外科・放 射線科合同 カンファレ ンス	Morning Report 外科抄読会	
午前	手術、回診・病棟業務					回診
午後	手術・検査					
夕刻	回診・病棟 業務	17:30 ～ 外科外来 にて勉強 会	回診・病棟 業務	回診・病棟 業務	15:30～ 手術症例カ ンファレン ス	

作成必須レポート

手術を含む外科症例を1例以上受け持ち、術前診断、術中診断、術後病理診断について評価する。術後管理や外来フォローアップ計画も含めて症例レポートを提出すること。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。外科手術例レポート作成を合格水準に達するまで指導する。

腫瘍内科

【研修目標】

科ごとの到達目標 GIO

- 1) がん診療の基本を理解する。
- 2) がんに対する診断と標準治療を理解する。
- 3) がん患者における多面的な問題に対応する。

行動目標 SBOs

- 1) 問診と身体所見、臨床検査によって必要な情報を収集する。
- 2) がん腫と病期を診断するための検査を計画する。
- 3) 標準治療とそれに適した支持療法を実施する。
- 4) 患者と家族に病状を説明する。
- 5) 多職種と連携して、チーム医療を行う。

【研修方略】

研修期間

2 年次選択

研修内容

病棟で週に 1 人から 2 人の新入院患者を指導医とともに担当する。レポート作成に必要な疾患を担当できるように指導医が配慮する。

- 1) 担当患者に対して問診を行い、病歴、既往歴、家族歴などを聴取する。身体診察と基本的な臨床検査を行う。さらに必要な検査（画像検査、内視鏡検査、病理検査など）を計画し、必要に応じて関連する診療科にコンサルトする。
- 2) がん腫と病期を診断し、患者の年齢や全身状態、社会的背景を考慮し、標準的な治療を提案する。手術、放射線治療、薬物療法などを検討する。
- 3) 指導医とともに、がんに対する薬物療法を行う。予想される有害事象に対して必要な支持療法を行う。
- 4) 患者と家族の心理状態に配慮しつつ、検査結果、診断、治療方針、今後の見通しについて、指導医とともに説明する。
- 5) がん性疼痛などのがんに伴う症状に対して、指導医とともに緩和医療を行う。必要に応じて緩和ケア内科など必要な診療科や多職種と連携する。

週間スケジュール：

曜日	午前	午後
月	オリエンテーション	病棟診療
火	外来診療	病棟診療
水	外来診療	消化器内科と検討会
木	外科、消化器科と検討会	病棟診療とカンファレンス
金	外来診療	病棟診療

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	解釈	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス
2)	問題解決	形成的	観察記録	指導医	カンファレンス
3)	問題解決	形成的	面接	指導医	カンファレンス
4)	態度	形成的	面接	指導医	診療
5)	態度	形成的	面接	指導医	診療

指導医との面接によって、内科診療において必要となるがん診療の理解の程度を評価する。研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。作成レポートを合格水準に達するまで指導する。

生体検査

超音波検査・心電図（負荷心電図）・ホルター心電図・肺機能・神経伝導速度

【研修目標】

一般目標 GIO

将来専攻する専門科に関わらず、救急における急性疾患のプライマリケアに役立つ超音波検査ができるようになるため、該当領域の知識を習得し、患者・スタッフとのコミュニケーションに留意し、超音波画像を抽出し判断ができる技能を修得する。

行動目標 SBOs

- 1) エコー機器が使用できる。(技能)
- 2) 各臓器が抽出できる。(技能)
- 3) それぞれの症状からエコーの必要性を説明できる。(想起)
- 4) 患者とのコミュニケーションから検査実施でのポイントを絞る事ができる。(解釈)
- 5) エコー検査が実践できる。(技能)
- 6) 患者に配慮しながら検査実施できる。(態度)
- 7) 描出した画像、計測値を理解し、臨床推論ができるようになる。(問題解決)

【研修方略】

研修期間

第1期（1年次研修）

- 1) 超音波講座・実技研修・・・研修医オリエンテーション期間に実施

第2期（2年次研修）

- 1) ローテーション中希望者 2週間～3週間
- 2) 1年次研修医への指導（年間1～2回）

研修内容：

<第1期>

- 1) 検査技師が、腹部・心臓・頸動脈超音波の基礎をテキスト使用し講義を行う。
- 2) 実技研修

第1回目・・・1年次研修医に対し、臨床検査技師3名でファシリテートしながら、心臓、腹部、頸動脈の3部門の基本走査を各領域20分程度実技研修する。
被検者は1年次研修医より選出する。

第2回目以降・・・2年次研修医がファシリテートしながら1年次研修医の指導を行う。

この時は、腹部・心臓領域のみとする。(1年次研修医を半数に分け2回開催) 臨床検査技師1名による指導あり。

<第2期>

1) ローテーション中希望者 (2週間~3週間)

各研修医の希望により領域指定あり。

生理検査室で実施されるエコーを研修基本事項に留意しておこなう。(OJT)

- ① 腹部エコー
- ② 心臓エコー
- ③ 表在エコー (甲状腺など)
- ④ 血管エコー

研修基本事項

- 1) 患者に研修医が施行することを明確にしコミュニケーションをとりながら実施する。
- 2) 最初に技師のエコーを見学し、検査の流れを把握する。
- 3) 技師施行後にエコーを実践。
- 4) 一連の画像を抽出出来るようになったら、技師もしくは各科の来室医師とともに最初からエコーを実践 (その際必ず研修医であることを明確にする)。
- 5) 最後に技師もしくは各科の来室医師とともに施行したエコーを評価しながら、報告書を作成する。
- 6) これを繰り返し、各種所見の評価が出来るようにする。
- 7) 1年次研修医のファシリテーションが出来るようにする。

方略	SB0s	方法	人数	時間	指導者
1 (第1期・1回目)	1~2	実務研修	約6人	各20分	臨床検査技師
2 (第1期・2回目以降)	2	実務研修	約6人	各30分	2年次研修医
3 (第2期)	3~4	シュミレーション	1人	1日目	臨床検査技師 来室医師
4 (第2期)	3~6	実務研修	1人	2日目~最終日	同上
5 (第2期)	7	討議	1人	2日目~最終日	同上

週間スケジュール：(当日の予約により変動します)

	月	火	水	木	金
午前	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在
午後	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在	腹部・心臓 血管・表在
来室医師 (午後)	循環器 Dr	循環器 Dr 内分泌 Dr	循環器 Dr	循環器 Dr	循環器 Dr 内分泌 Dr

【研修評価】

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	実地試験	臨牀検査技師	1年次研修期
2	技能	形成的	実地試験 スキルチェックシート使用	同上	1年次研修期
3	想起	形成的	口頭試験	同上	2年次ローテート中
4	解釈	形成的	口頭試験	同上	2年次ローテート中
5	技能	形成的	実地試験	同上	2年次ローテート中
6	態度	形成的	実地試験	同上	2年次ローテート中
7	問題解決	形成的	口頭試験	同上	2年次ローテート中

【評価項目】

第1期

スキルチェックシート項目

【腹部】(画像を描出できる)

- ◇肝臓(区域 脈管)
- ◇胆嚢(頸部 体部 底部)
- ◇膵臓(CBD 頭部 体部 尾部)
- ◇腎臓(右 左)
- ◇脾臓

【心臓】(画像を描出できる)

- ◇長軸像
- ◇短軸像(AO MV PM APEX)
- ◇4CH(左心系・右心系)

【頸動脈】(各血管のオリエンテーションができる)

- ◇総頸(血管径・位置・流速波形)

◇内頸（血管径・位置・流速波形）

◇外頸（血管径・位置・流速波形）

第2期

超音波検査

◇必要な計測ができる

◇計測値を評価できる

◇画像の評価ができる

◇1年次研修医のファシリテーションが適切である

心電図検査

◇心電図検査ができる

◇緊急心電図が判読できる

◇負荷心電図で虚血性心疾患を判読できる

◇ホルター心電図が判読できる

肺機能検査

◇結果から疾患名が推論できる

◇結果の信頼性が推論できる

神経伝導速度

◇結果を判読できる

感染制御 細菌検査+ICT (感染対策チーム)+AST (抗菌薬適正使用支援チーム)

【研修目標】

一般目標 GIO

将来の専門分野に関わらず、感染症診療が適切に行える医師になるために、微生物検査の適切な利用、感染対策の基本的事項、抗菌薬使用の原則について理解を深め、実践できる能力と診療態度を身につける。

行動目標 SBOs

- 1) 感染対策に留意し正確に無菌操作ができる。(技能)
- 2) 培養検体の正しい採取と取り扱い(保存・提出方法)が説明できる。(解釈)
- 3) 培養目的を明確にした依頼ができる。(態度)
- 4) 培養提出検体の評価ができる。(解釈)
- 5) Gram 染色を正確に実施し、起炎菌を推定できる。(知識・技能)
- 6) 血液培養陽性検体の検体処理から結果報告までを的確に行うことができる。(技能)
- 7) 菌の同定方法の概要を述べるができる。(知識)
- 8) 薬剤感受性試験の結果を解釈できる。(解釈)
- 9) 薬剤耐性菌の種類、判定する薬剤名、治療薬を述べるができる。(知識)
- 10) 迅速検査項目(POCT: Point of care testing)の実施・判定ができる。(知識・技能)
- 11) 標準予防策・経路別感染予防策について理解し実践できる。(知識・技能・態度)
- 12) 感染症診療の原則・抗菌薬適正使用の概念を理解する。(知識・態度) 感染対策チーム・抗菌薬適正使用チームの役割と意義について理解する。(知識・態度)

【研修方略】

研修期間

2年次選択1週間(希望者は1年次の選択期間でもローテ可)

研修内容

- 1) 細菌検査室の備品の使用方法・検体の取り扱い・感染対策の説明を受ける。
- 2) Gram 染色の塗沫標本作製から染色まで正確に行えるよう繰り返し実習し、担当検査技師に評価・指導を受ける。
- 3) 顕微鏡の操作を正確に行うことができるよう練習する。
- 4) 鏡検を行い、検査材料・Gram 染色所見・臨床所見より起炎菌を推定し、担当検査技師に報告し指導を受ける。
- 5) 血液培養陽性検体の鏡検結果と推定菌について主治医に報告する。(報告前には、必ず担当検査技師に確認すること)

- 6) 臨床検体の無菌的な培地への塗布を訓練する。釣菌から確認培地への接種を行い、菌名同定を行う。結果は担当検査技師と確認する。
- 7) 薬剤感受性測定結果をもとに、体内移行性・臨床状況を考慮し、適切な治療薬を選択する考え方を学ぶ（講義及び自己学習）。
- 8) 迅速検査（インフルエンザ・溶連菌・CDI など）を施行し、結果を判定する。
- 9) AST 担当医師・薬剤師による血液培養陽性例カルテラウンドに参加し指導を受ける。
- 10) 感染症診療・抗菌薬についての基本知識のテストを受講し、合格する。
- 11) ICT の病棟ラウンド・ICT ミーティングに参加する。
- 12) 感染管理認定看護師（CNIC）の業務について説明を受け、協力できる部分を担当する。
- 13) 研修終了時にショートプレゼンテーション（それまでに経験した、細菌検査結果に応じて抗菌薬を選択して治療した症例の振り返り：最低2例）を行う。

週間スケジュール：（状況により曜日ごとの研修内容は適宜変更あり）

月	火	水	木	金
AM オリエンテーション ・Gram 染色 (おもに血培検体)	AM ・Gram 染色 ・血培陽性処理 ・同定の説明	AM ・血培陽性処理 ・同定実習 ・感受性説明 ・迅速検査	AM ・血培陽性処理 ・同定結果報告 ・便培養説明 ・感受性の解釈	AM ・血培陽性処理 ・便検査の実習 ・補足実習日
PM 血培ラウンド AST 抗菌薬小テスト	PM ICT ラウンド ICT meeting	PM 血培ラウンド AST 抗菌薬小テスト	PM ICN 同行研修	PM まとめ 症例プレゼン

※当直明けや ER 当番はそちらを優先してください。ただし細菌検査の一連の流れを学ぶために連続して3日間は研修できるようにスケジュール調整することをお勧めします。

【研修評価】

SB0s	領域	目的	方法	測定者	時期
1	技能	形成的	実地試験	細菌検査技師	ローテート中
2	解釈	形成的	口頭試験	細菌検査技師	適宜
3	態度	形成的	観察記録	細菌検査技師・ICD	適宜
4	解釈	形成的	実地試験	細菌検査技師	適宜
5	知識/技能	形成的	実地試験	細菌検査技師・ICD	適宜
6	技能	形成的	口頭試験	細菌検査技師・ICD	適宜
7	知識	形成的	観察記録	細菌検査技師	ローテート中
8	解釈	形成的	実地試験	細菌検査技師	ローテート中
9	知識	形成的	口頭試験	細菌検査技師	適宜
10	知識/態度	形成的	口頭試験	細菌検査技師	適宜
11	知識/技能/態度	形成的	口頭試験	ICD/ICN	ローテート中
12	知識/態度	形成的	筆記試験	ICD/PIC	ローテート中

13	知識/態度	形成的	口頭試験	ICD/PIC/ICN	ローテート中
----	-------	-----	------	-------------	--------

【指導者・評価者】

感染制御部・細菌検査に関わる下記スタッフが指導・評価を担当する。

感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）・細菌検査担当技師

感染制御認定薬剤師（PIC）・抗菌化学療法認定薬剤師（IDCP）

感染制御認定看護師（ICN/CNIC）

感染制御部医師・インフェクションコントロールドクター（ICD）

2021年（令和3年）2月 作成版

Morning Report 症例発表ガイド

30分と限られた時間の中で効率よく明日からの診療にいかせるような「使える」成果を得ることが目標

症例発表&ディスカッション

「後医は名医」発表者を責めるのではなく、どうしたら次回にいかせるか建設的な意見を
手痛い失敗症例ほどみんなのためになる。勇気をもって発表を

発表者は発表前にフォーカスとしたい事項を宣言するとよい

病歴からの鑑別診断の列挙か、レントゲンの読影か、難症例を共有したいのか、など

発表者:

1. フォーマット(主訴、現病歴、既往歴...)に従い、分かりやすくスムーズな発表をする
2. 反省点、自分の得た教訓を述べ、できればパールを披露する
3. フィードバックをもらい、次回からの診療に活かす

参加者:

1. 事前に送られるメールを確認し、鑑別診断とアプローチを考えておく
2. 症例を疑似体験し、鑑別診断、病歴の追加事項、診察の組み立て、検査を考える
3. 救急では時間は限られる。「なぜその病歴 or 診察 or 検査が必要なのか」説得力のある根拠とともに自分の意見を述べる
4. 自分が担当したつもりで血液検査、画像を系統的に読み取り、所見を述べる

司会者:

1. 所々で質問をはさみ、ディスカッションを盛り上げる
2. 適切な時間配分をし、時間内に終わらせる

監督:

1. 発表者に足りない知識理解を適宜補ってください(ワンポイントレクチャーなど)
2. ディスカッションの締めに、診療上よかった点、次回よりの改善点を教えてください

マイナー系、外科系 Dr 依頼

火曜日担当ではその前の金曜日に、木曜日担当では月曜日に監督 Dr.に連絡

以下のいずれの形式でもよい

- 1) 自分でレクチャーを作成し監督 Dr.に添削してもらう
- 2) テーマに沿った症例を用意し、監督 Dr.にコメントしてもらう
- 3) 特に教えて欲しい事柄を伝え、監督 Dr.にレクチャーを依頼する

監督 Dr.が来られない時のため簡単なテーマを用意しておく(DVD、症例集など)

臨床病理検討会開催要項

当院で開催する CPC は、研修医諸君には参加が義務付けられています。CPC では臨床症例呈示と病理報告を各々研修医 1 名が担当します。

研修医諸君は剖検時当番で呼ばれた場合、原則としてその患者の病理担当となってください。病理担当研修医は臨床情報の概略を把握し、剖検検体固定後「マクロ写真撮影と標本切り出し」を病理指導医とともに行います。このとき肉眼所見をとり記録します。後日標本ができたなら病理医師の指導のもと鏡検して組織所見をまとめます。CPC の日程が決まったら、臨床担当研修医と打ち合わせて CPC に臨みます。

2 年間に CPC 報告書を 1 例以上作成することが義務付けられています。臨床担当と病理担当の 2 名の研修医で 1 例の剖検報告書を作成してください。

研修医の病理診断科研修について

執筆責任者（病理診断科：露木琢司、教育研修室）

目次

臨床研修必須事項.....	1
およその予定.....	1
病理解剖立ち会いについて.....	1
CPC 日時について.....	2
CPC 開催までの流れ.....	2
CPC 全体の流れ.....	2
CPC レポート作成について.....	3
内科専門医の病理レポートについて.....	3

平成 29 年 3 月 作成
平成 30 年 3 月 訂正
令和元年 7 月 修正
令和 2 年 12 月 修正
令和 5 年 9 月 修正

臨床研修必須事項

1. 病理解剖立ち会い 1 例
 2. CPC (clinico-pathological conference) での臨床経過のプレゼンテーションスライド作成と発表 1 例
 3. 2. で行った CPC を PG-EPOC に登録する。
1. と 2-3. はなるべく同じ症例にするように配慮していますが、異なる場合もあります。
- *CPC の出席は研修の一環です。卒後臨床研修評価機構により出席は義務づけられています。当直開け、休暇中、救急外来対応等の場合を除き全員出席してください。

およその予定

解剖立ち会い (1 年次) →病理解剖報告書完成 (1 年次後半から 2 年次) →CPC 開催 (2 年次)
→レポート提出・PG-EPOC 登録締め切り (2 年次 1 月)

病理解剖 (剖検) 立ち会いについて

1. 担当患者またはローテーション科内で剖検となった例があった場合は、担当医とともに参加してください。
2. 剖検録には、剖検の立ち会い者として名前を記載してください。重要です。
*2 年次の剖検立ち会い未経験者には、積極的に病理診断科から連絡します。該当者間で調整の上、剖検に参加してください。
*チャンスを逃さないように注意してください。

CPC 日時について

木曜又は金曜日で調整をします。

CPC 開催までの流れ

1. CPC 症例の病理解剖報告書完成が院内メールにて伝えられます。
2. 教育研修課とともに開催日を決定します。
3. 「CPC 開催のお知らせ」が院内 web に掲載されます。開催場所、時間、仮の症例タイトル、担当臨床医・病理医名、が掲載されます。
4. 入院から死亡までの経過を、一般的な内科症例報告のスタイルでパワーポイントファイルに作成してください。担当医のチェックを受けてください。
「病理解剖の目的」としたスライドを経過の最後に作成してください。病理医のチェックは必要ありません。発表当日は電子カルテ端末を用います。
5. 「CPC 開催のお知らせ」が再度院内 web に掲載されます。開催場所、時間、仮の症例タイトル、担当臨床医・病理医名、が掲載されます。

*過去の CPC 症例ファイルは、共有フォルダ > 五竜会 > 検査 > 16・病理 > CPC 内にあります。

*1 件の CPC を研修医 2 名が担当します。当日のプレゼンテーションも必須事項です。適宜分担してください。

CPC 当日の流れ

1. 研修医 2 名、担当医 1 名、病理医 1-2 名、画像診断医 1 名、病理検査技師 1 名、教育研修室事務員 1 名により開催されます。
2. 発表担当研修医は当日 10 分前に会場に到着し、準備してください。
3. 発表者・出席者は名簿に記名してください。
4. 電子カルテ端末を用いてプレゼンテーションが行われます。
5. 研修医が臨床経過を発表します。適宜質問の時間があります。
6. 病理医が解剖結果を発表します。適宜質問の時間があります。
7. 全体を通したディスカッションが行われます。
8. 研修医のプレゼンテーションファイルは、共有フォルダ > 五竜会 > 検査 > 16. 病理 > CPC の部門フォルダに提出してください。

PG-EPOC への登録について

1. CPC で担当した症例について PG-EPOC 『研修医のその他の研修活動の記録の確認』に入力し登録してください。討議の内容はメモ欄に入力してください。

内科専門医のレポートについて

内科専門医取得を考えている研修医向けのお知らせです。

- ・内科専門医受験時に病理解剖となった症例のレポート提出があります。
- ・研修医時の経験症例や解剖に立ち会った症例を提出することがありますので留意してください。
- ・実際に内科専門医受験レポートとして提出する場合は、その旨を病理診断科に伝えてください。病理解剖報告書の書面が必要な場合も申し出てください。
- ・病理からレポートを受け取ったら、依頼医あるいは立会者として自分の名前が記載されていることを確認してください。